

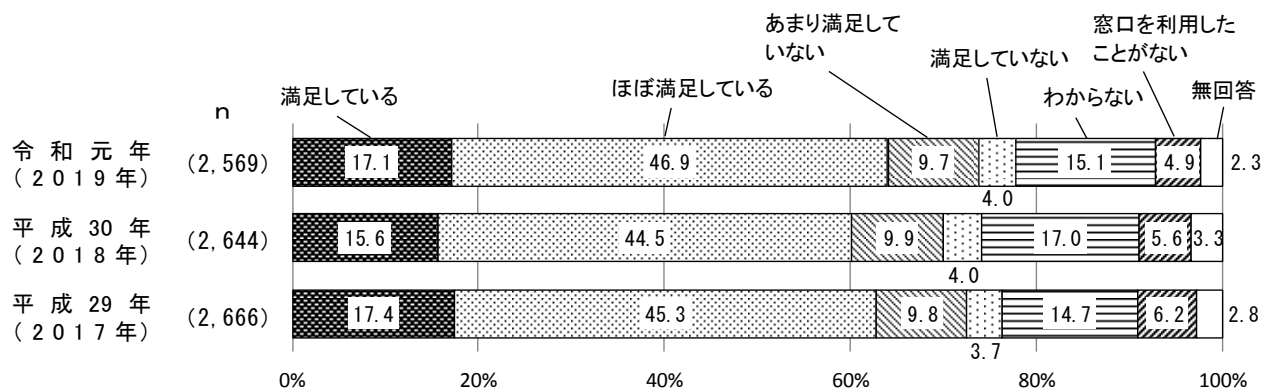
### 3. 「八王子ビジョン2022」の施策指標に関する調査

#### (1) 窓口サービスの満足度

◇《満足》が6割台半ば

問14 あなたは、市の窓口サービス（職員の対応や提供内容、処理時間など）に満足していますか。（○は1つだけ）

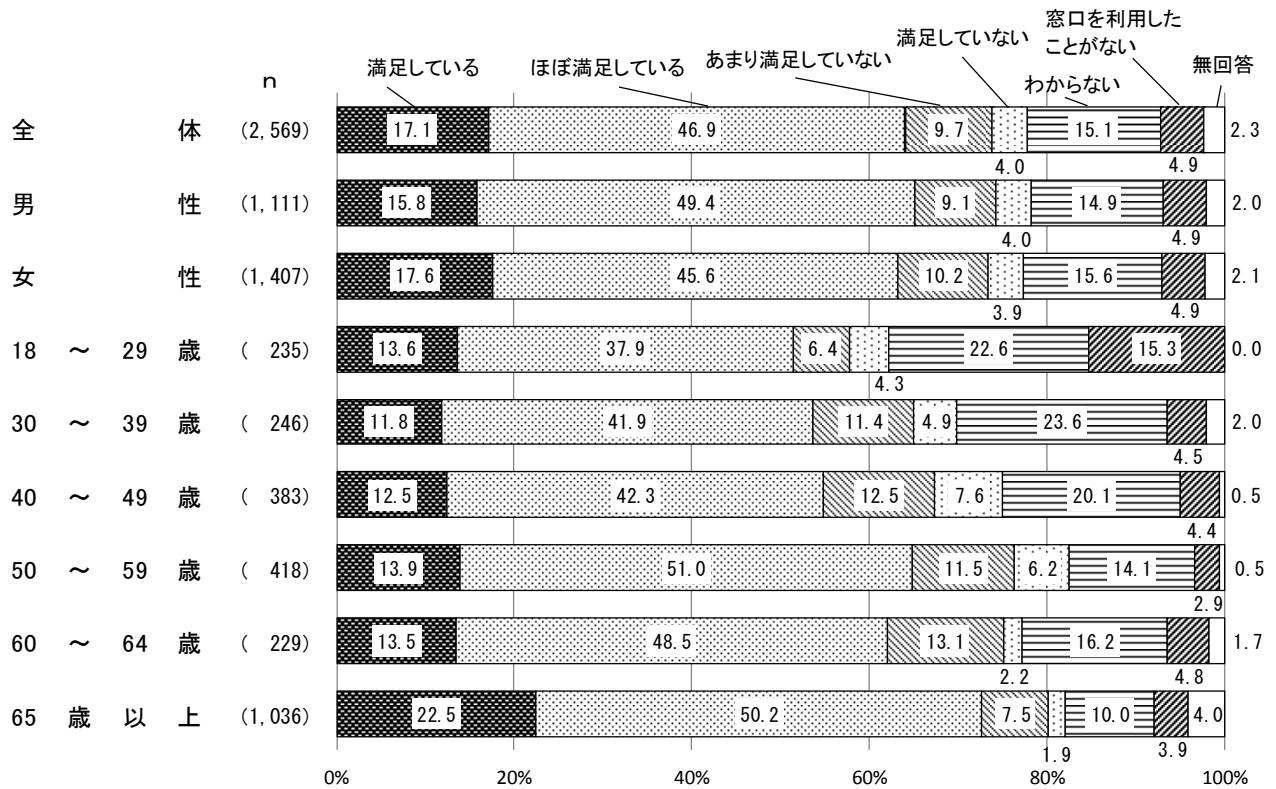
図3-1-1 窓口サービスの満足度—全体、経年比較



市の窓口サービス（職員の対応や提供内容、処理時間など）に満足しているか聞いたところ、「満足している」（17.1%）と「ほぼ満足している」（46.9%）を合わせた《満足している》（64.0%）は6割台半ばとなっている。一方、「あまり満足していない」（9.7%）と「満足していない」（4.0%）を合わせた《満足していない》（13.7%）は1割強となっている。

前回までの調査と比較すると、《満足している》は平成30年（2018年）（60.1%）より3.9ポイント増加している。（図3-1-1）

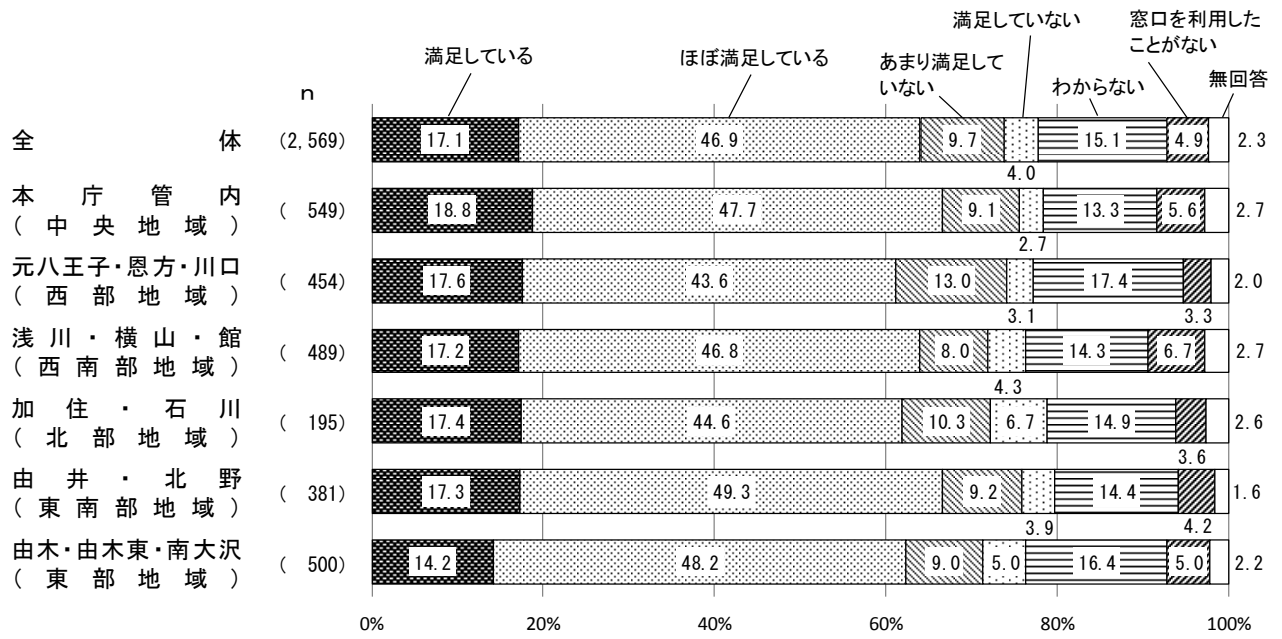
図 3-1-2 窓口サービスの満足度—性別、年齢別



性別にみると、大きな傾向の違いはみられない。

年齢別にみると、「満足している」は高い年代ほど割合が高くなっており、65歳以上（72.7%）で7割強と多くなっている。（図 3-1-2）

図 3-1-3 窓口サービスの満足度—居住地域別



居住地域別にみると、「満足している」は本庁管内（中央地域）（66.5%）と由井・北野（東南部地域）（66.6%）の両地域で7割近くと多くなっている。（図3-1-3）

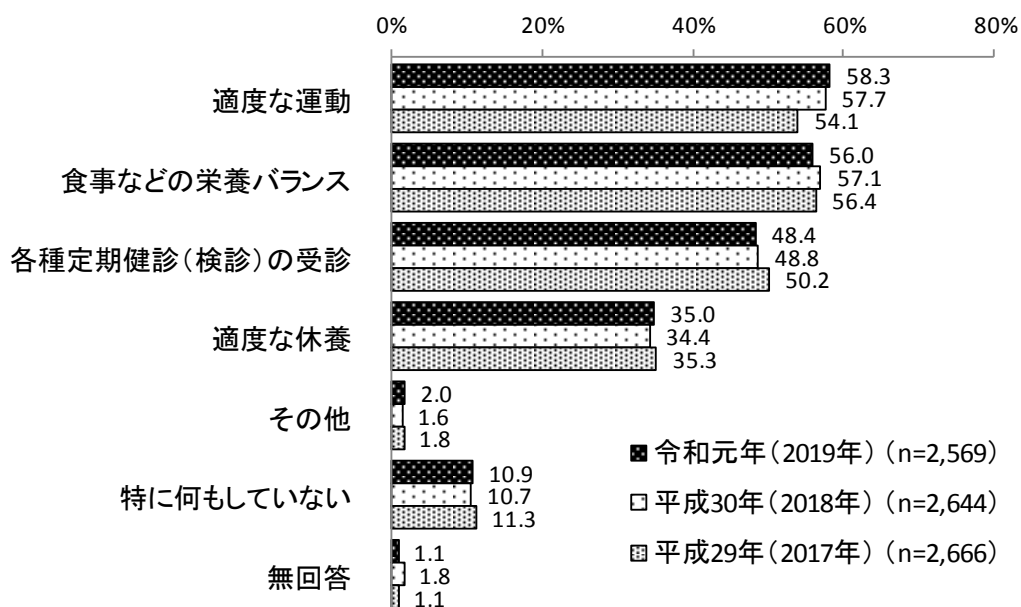
## (2) 健康のために心がけていること

◇「適度な運動」が6割近く

問15 あなたが健康の維持・増進のために、自ら心がけていることはどれですか。

(○はいくつでも)

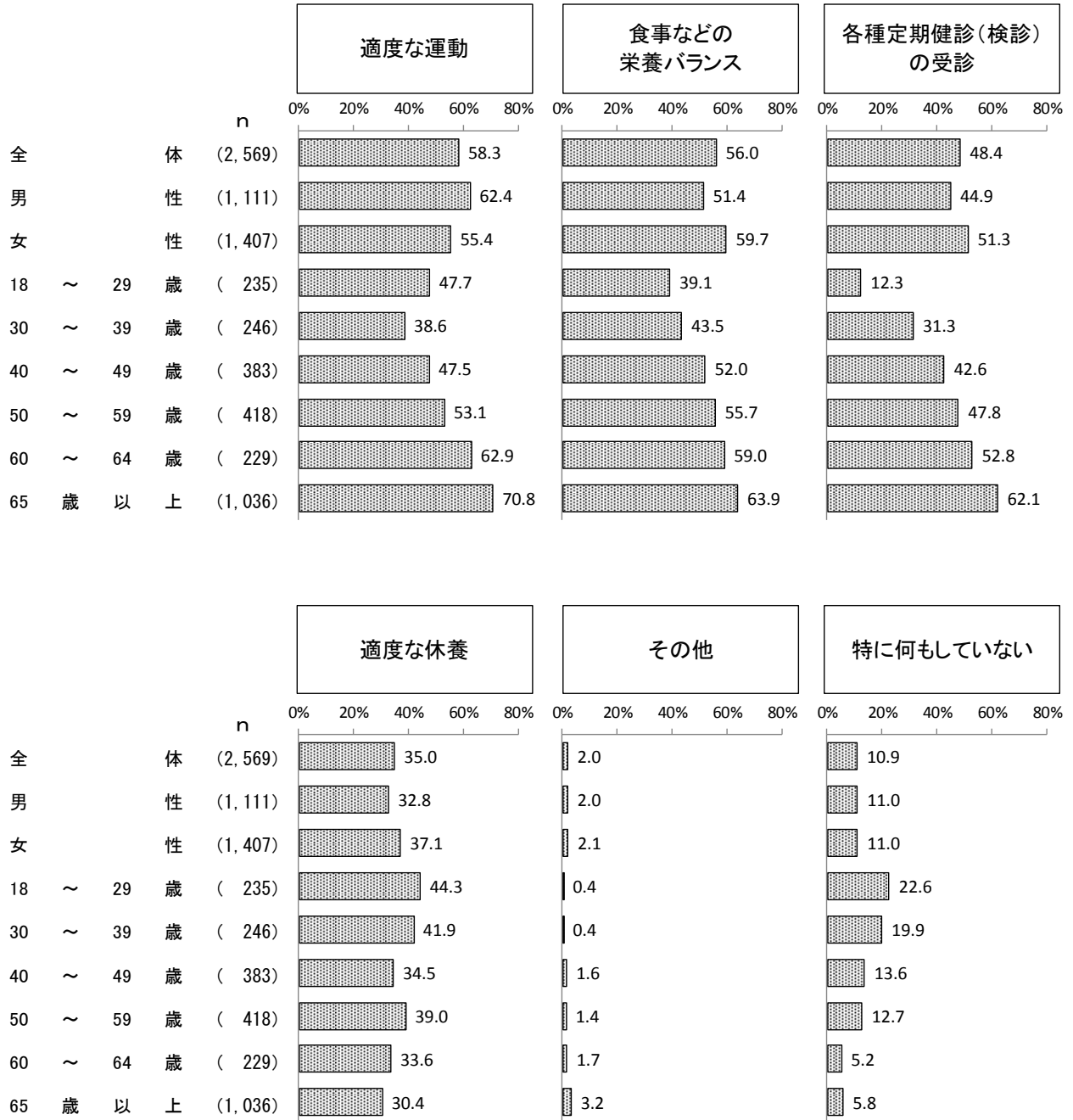
図3-2-1 健康のために心がけていることー全体、経年比較



健康の維持・増進のために、自ら心がけていることを聞いたところ、「適度な運動」(58.3%)と「食事などの栄養バランス」(56.0%)の2項目がともに6割近くで並んで最上位にあり、以下「各種定期健診(検診)の受診」(48.4%)、「適度な休養」(35.0%)などの順となっている。

前回までの調査と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。(図3-2-1)

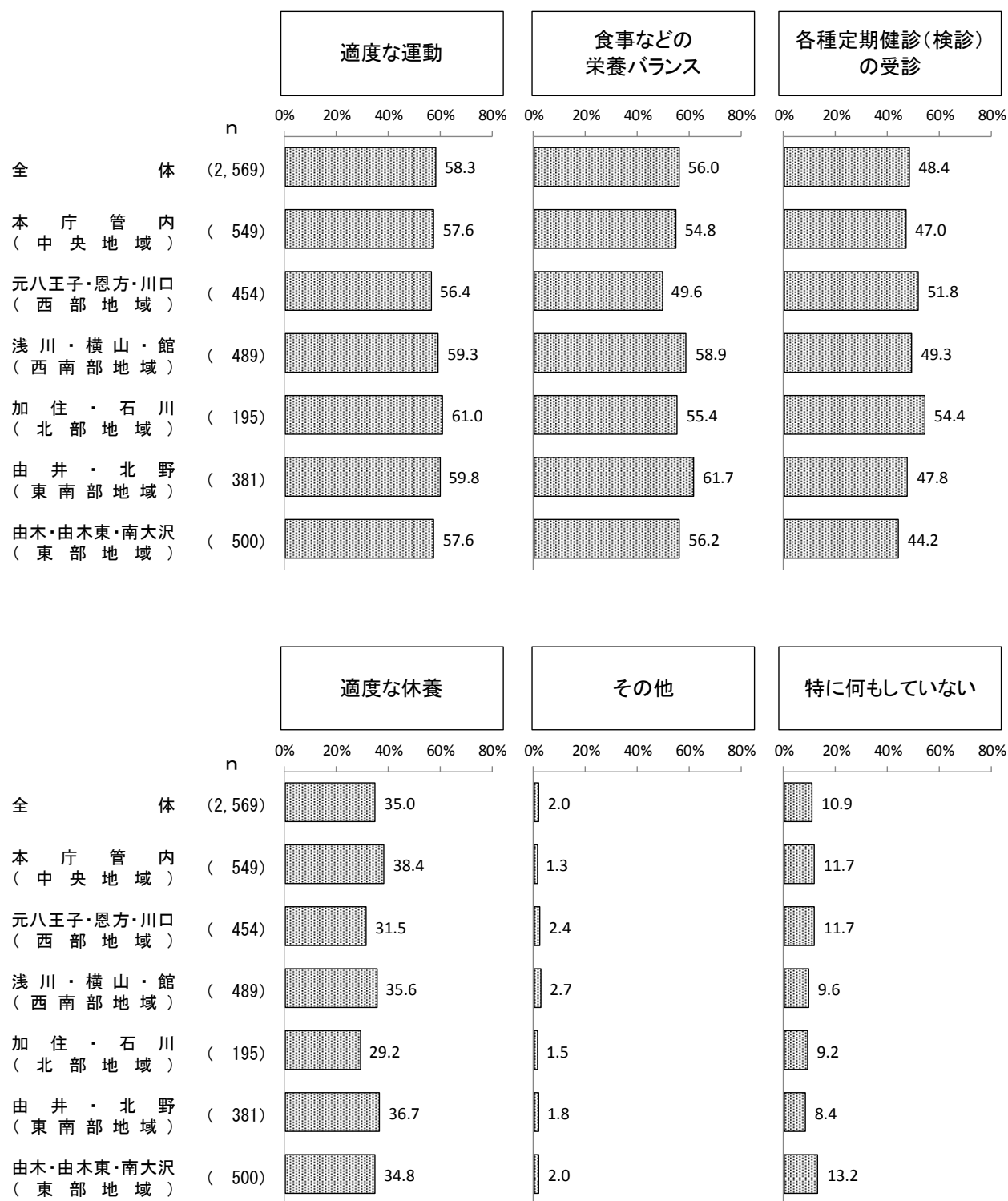
図3-2-2 健康のために心がけていることー性別、年齢別



性別にみると、「食事などの栄養バランス」は女性（59.7%）が男性（51.4%）より8.3ポイント高く、「各種定期健診（検診）の受診」も女性（51.3%）が男性（44.9%）より6.4ポイント高くなっている。一方、「適度な運動」は男性（62.4%）が女性（55.4%）より7.0ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「適度な運動」「食事などの栄養バランス」「各種定期健診（検診）の受診」の上位3項目は、概ね年代が上がるにつれてその割合も高まる傾向がみられ、中でも「適度な運動」は65歳以上（70.8%）で約7割と多くなっている。「各種定期健診（検診）の受診」は18～29歳（12.3%）が1割強と少なくなっている。一方、「適度な休養」は18～29歳（44.3%）で4割台半ばと多くなっている。（図3-2-2）

図3-2-3 健康のために心がけていることー居住地域別



居住地域別にみると、「食事などの栄養バランス」は由井・北野（東南部地域）（61.7%）で6割強と多く、「適度な休養」は本庁管内（中央地域）（38.4%）で多くなっている。一方、「特に何もしていない」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（13.2%）で多くなっている。（図3-2-3）

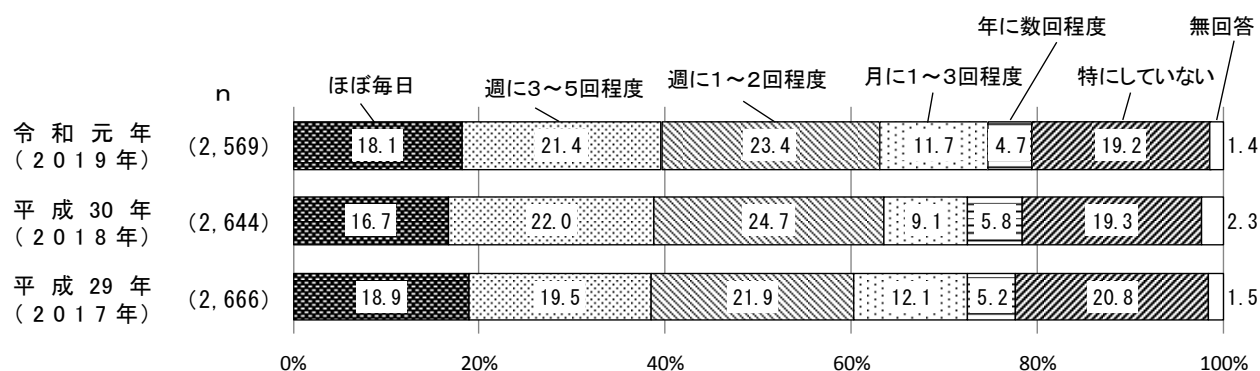
### (3) この1年間の運動頻度

◇《週1回以上》が6割強

問16 あなたは、この1年間に、どれくらいの頻度で運動をしましたか。複数の運動を行っている場合は、その合計回数をお答えください。(○は1つだけ)

※運動には、野外活動(登山やハイキングなど)や健康の維持・増進のために通勤時の自転車・徒歩、散歩(散策、ペットの散歩を含む)などで1日合計30分以上行うものも含めます。

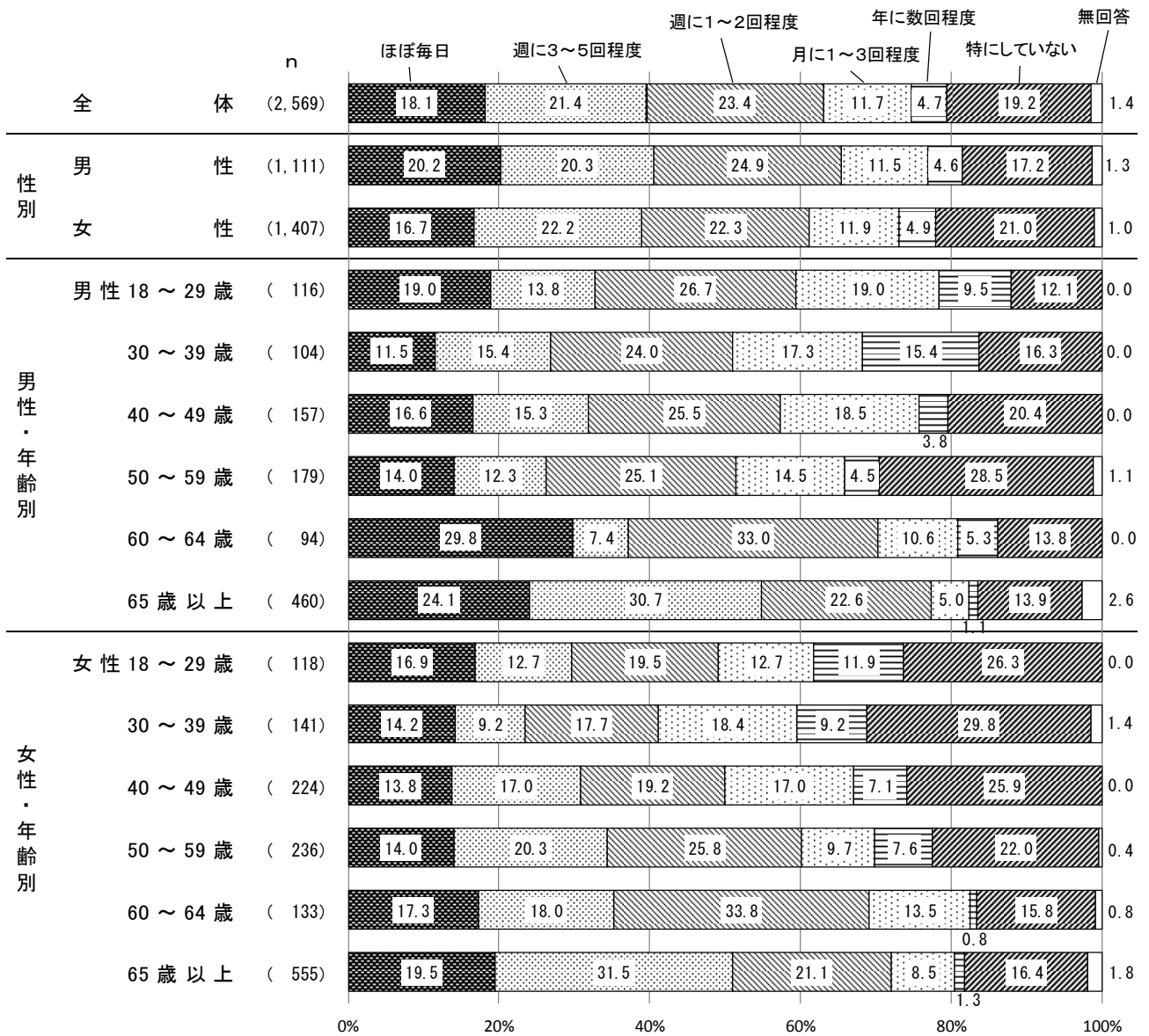
図3-3-1 この1年間の運動頻度—全体、経年比較



この1年間にどれくらいの頻度で運動をしたか聞いたところ、「ほぼ毎日」(18.1%)、「週に3~5回程度」(21.4%)、「週に1~2回程度」(23.4%)の3つを合わせた《週1回以上》(62.9%)は6割強となっている。「月に1~3回程度」(11.7%)が1割強で、「特にしていない」(19.2%)は2割弱となっている。

前回までの調査と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。(図3-3-1)

図3-3-2 この1年間の運動頻度—性別、性・年齢別



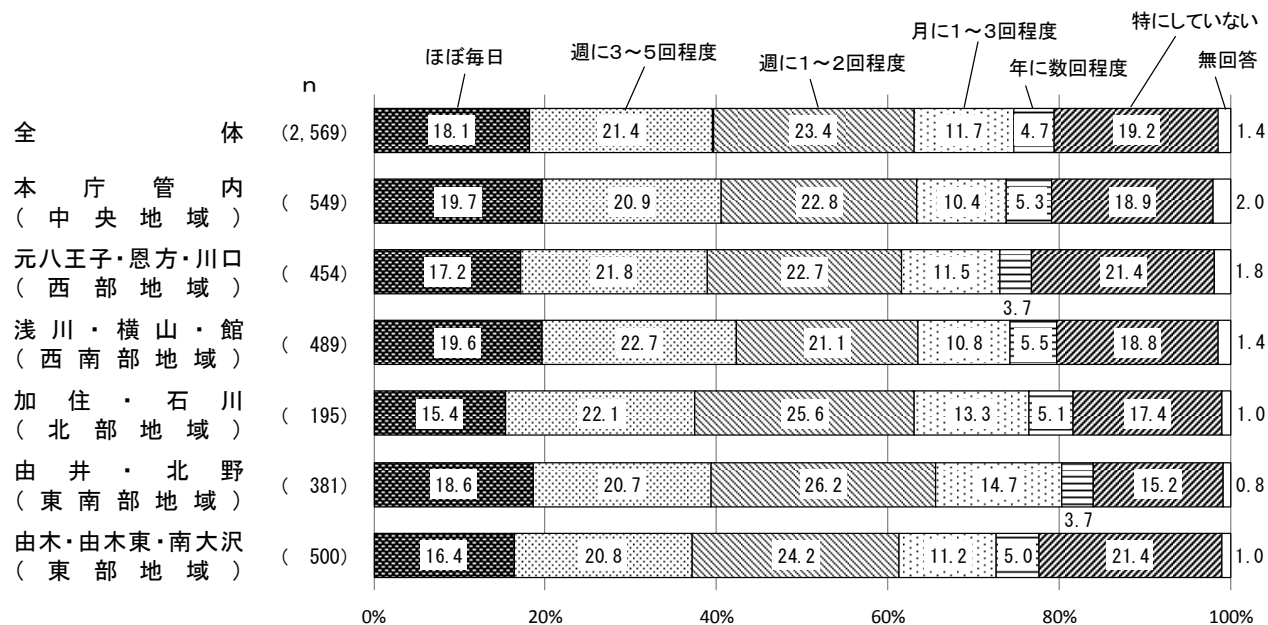
性別にみると、大きな傾向の違いはみられない。

性・年齢別にみると、《週1回以上》は65歳以上の男女両層（男性77.4%、女性72.1%）で7割強～8割近くと多くなっている。一方、女性30～39歳（41.1%）で4割強と少なくなっている。

(図3-3-2)

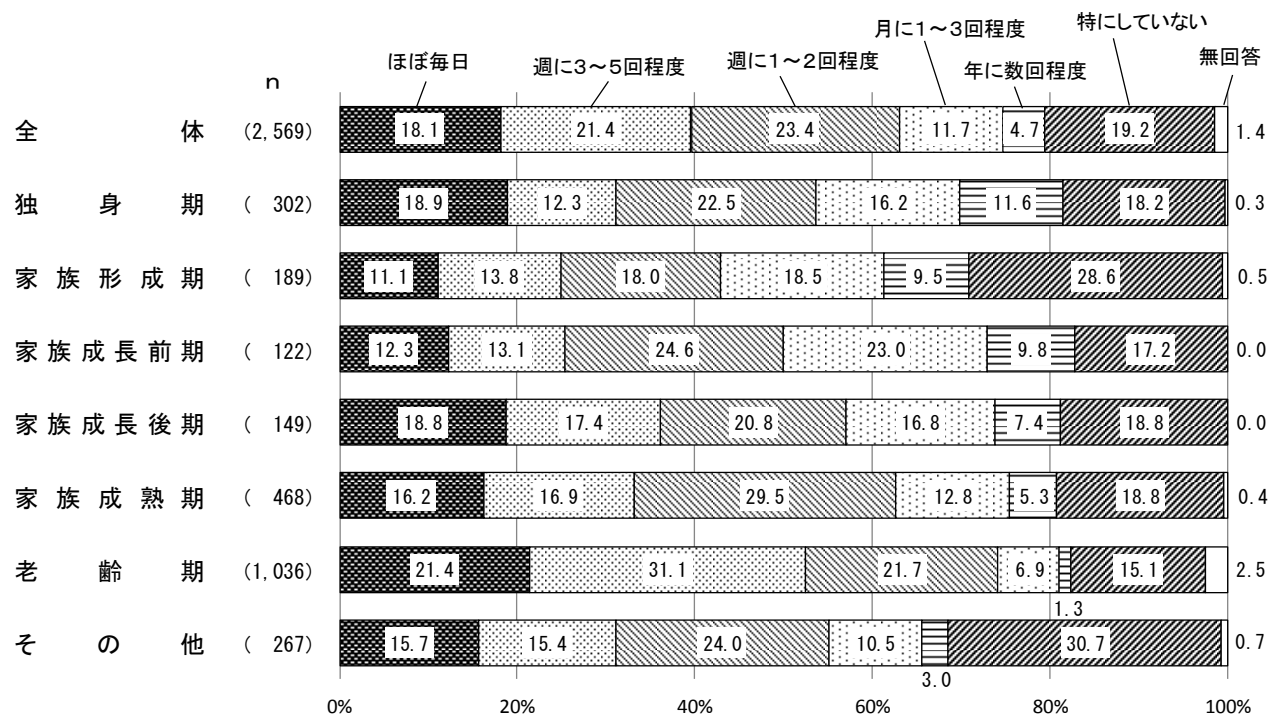


図 3-3-3 この1年間の運動頻度—居住地地域別



居住地地域別にみると、「週1回以上」は由井・北野（東南部地域）（65.5%）で6割台半ばと多くなっている。一方、元八王子・恩方・川口（西部地域）（61.7%）と由木・由木東・南大沢（東部地域）（61.4%）の両地域で6割強と少なくなっている。（図3-3-3）

図 3-3-4 この1年間の運動頻度—ライフステージ別



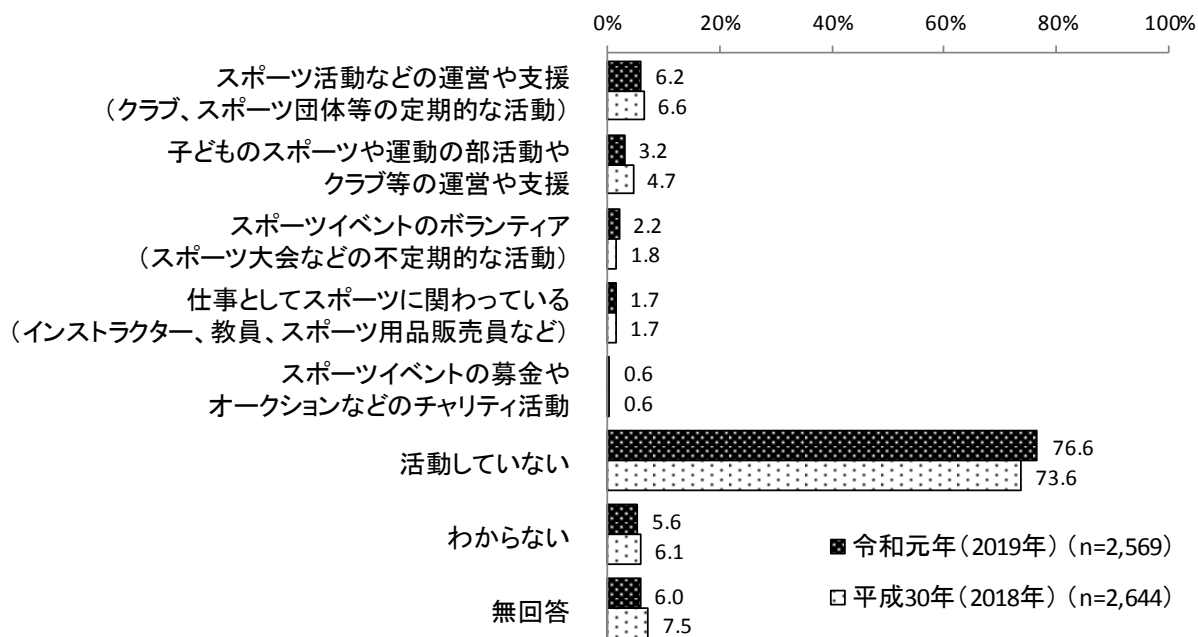
ライフステージ別にみると、「週1回以上」は老齢期（74.2%）で7割台半ばと多くなっている。一方、家族形成期（42.9%）で4割強と少なくなっている。（図3-3-4）

#### (4) この1年間に関わったスポーツを支える活動

◇「活動していない」が8割近く

問17 この中に、あなたがこの1年間に関わったスポーツを支える活動がありますか。  
あてはまるものに○をつけてください。(○はいくつでも)

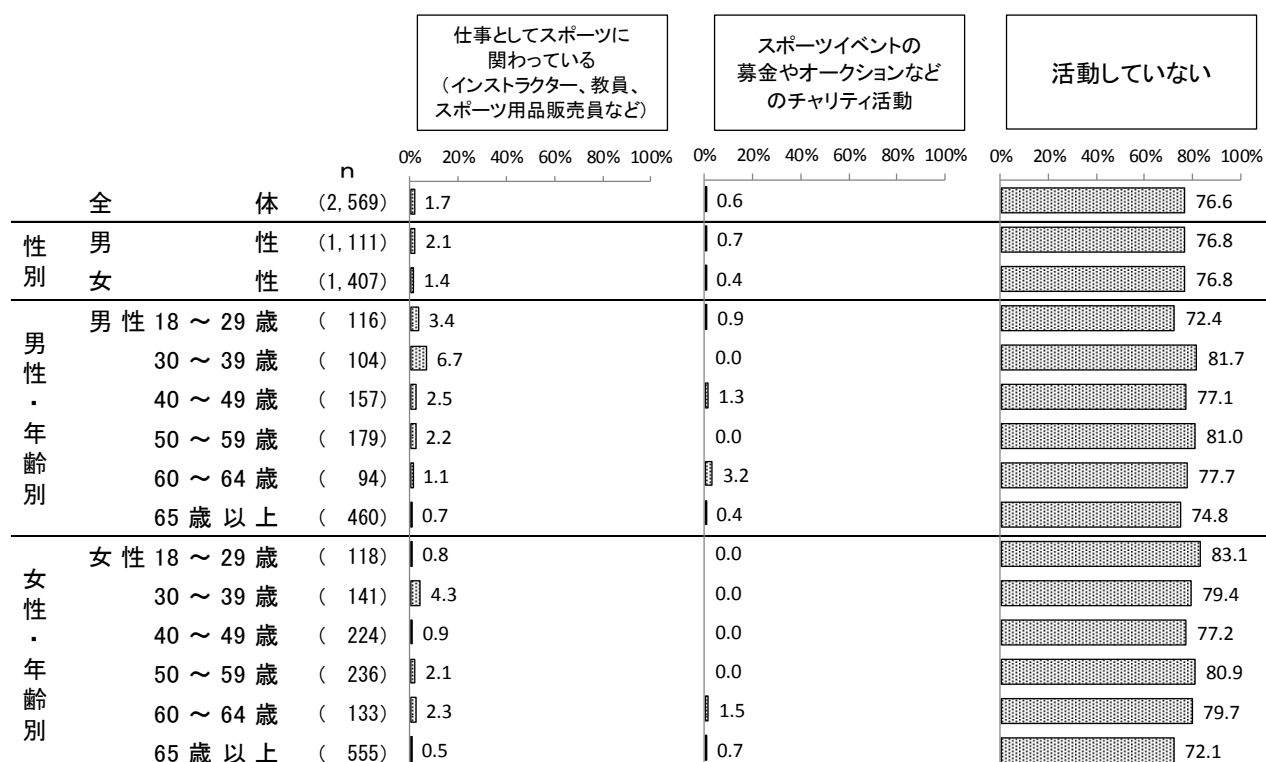
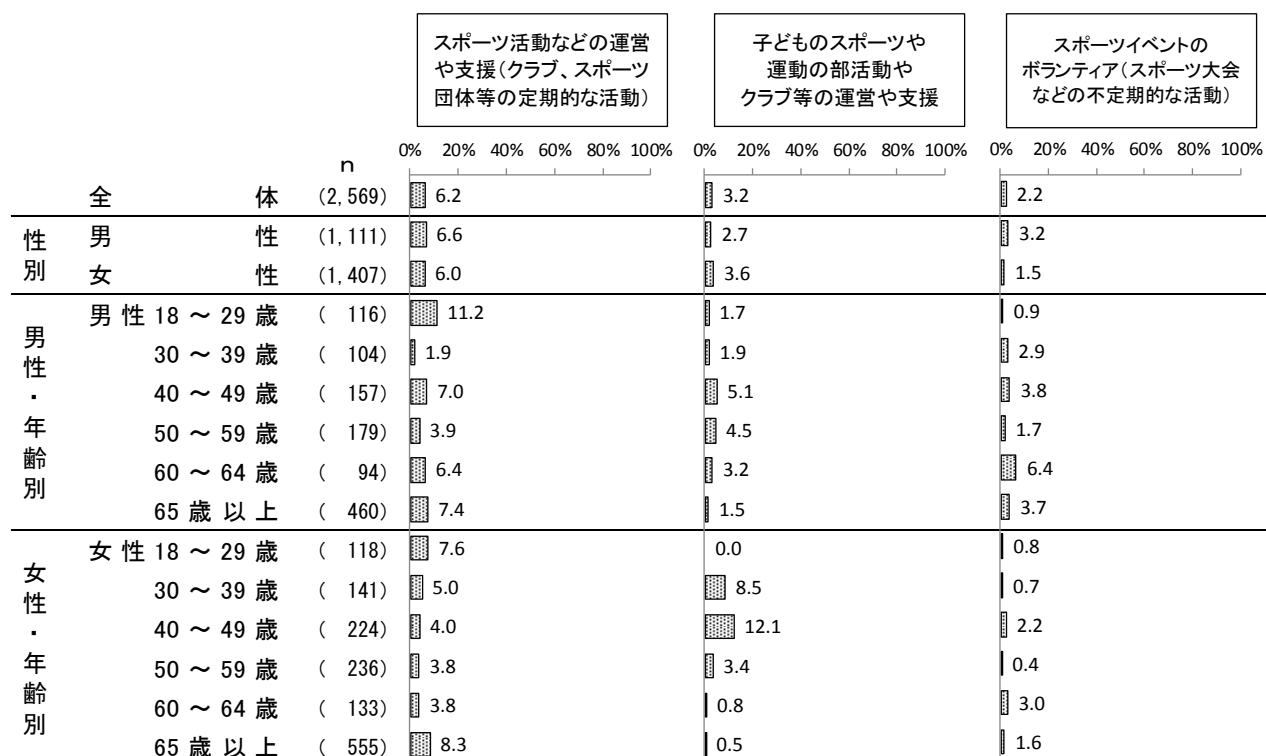
図3-4-1 この1年間に関わったスポーツを支える活動—全体、経年比較



この1年間に関わったスポーツを支える活動を聞いたところ、「スポーツ活動などの運営や支援(クラブ、スポーツ団体等の定期的な活動)」(6.2%)をはじめとする各活動参加者はそれぞれ1割未満で、「活動していない」(76.6%)が8割近くを占めて多くなっている。

前回の調査と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。(図3-4-1)

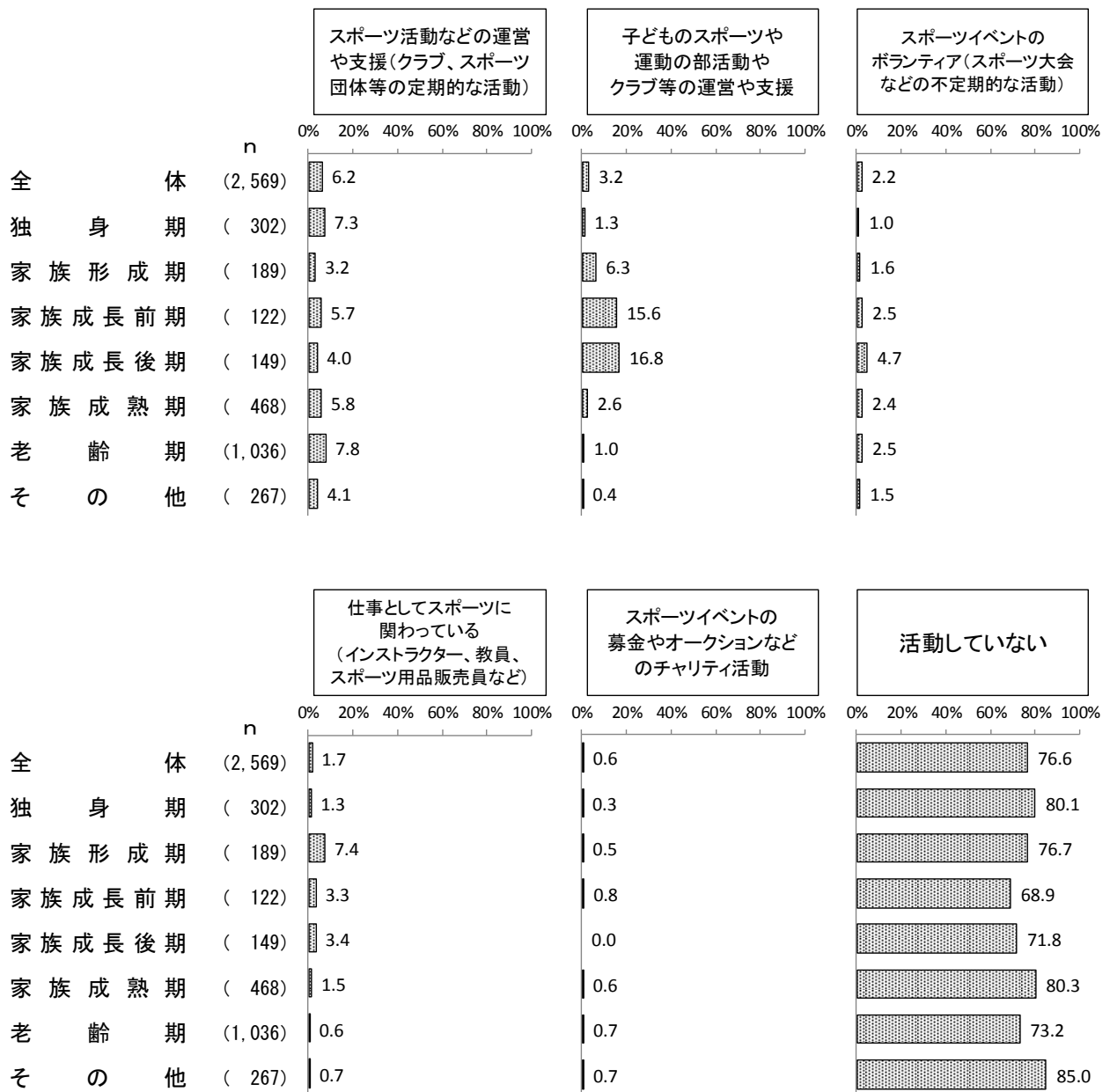
図3-4-2 この1年間に関わったスポーツを支える活動—性別、性・年齢別  
(「わからない」を除く)



性別にみると、違いはみられない。

性・年齢別にみると、各活動に関して1割未満の結果が多い中、「子どものスポーツや運動の部活動やクラブ等の運営や支援」は女性40～49歳(12.1%)で1割強と多くなっている。一方、「活動していない」は各年代で7割強～8割強と多くなっており、中でも女性18～29歳(83.1%)で8割強と最も多くなっている。(図3-4-2)

図3-4-3 この1年間に関わったスポーツを支える活動－ライフステージ別  
 (「わからない」を除く)



ライフステージ別にみると、「子どものスポーツや運動の部活動やクラブ等の運営や支援」は家族成長前期 (15.6%) と家族成長後期 (16.8%) の両層で1割台半ば～2割近くと多くなっている。一方、「活動していない」はその他 (85.0%) で8割台半ばと多くなっている。(図3-4-3)

## (5) 障害者スポーツへの関心

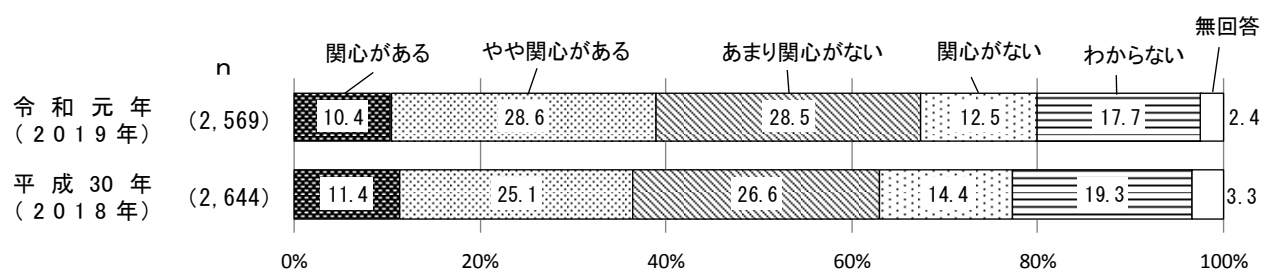
### ◇《関心がある》が4割弱

問18 あなたは、障害者スポーツに関心がありますか。(○は1つだけ)

※「障害者スポーツ」とは・・・

障害があってもスポーツ活動ができるよう、障害に応じ競技規則や実施方法を変更したり、用具等を用いて障害を補ったりする工夫・適合・開発がされたスポーツのことです。

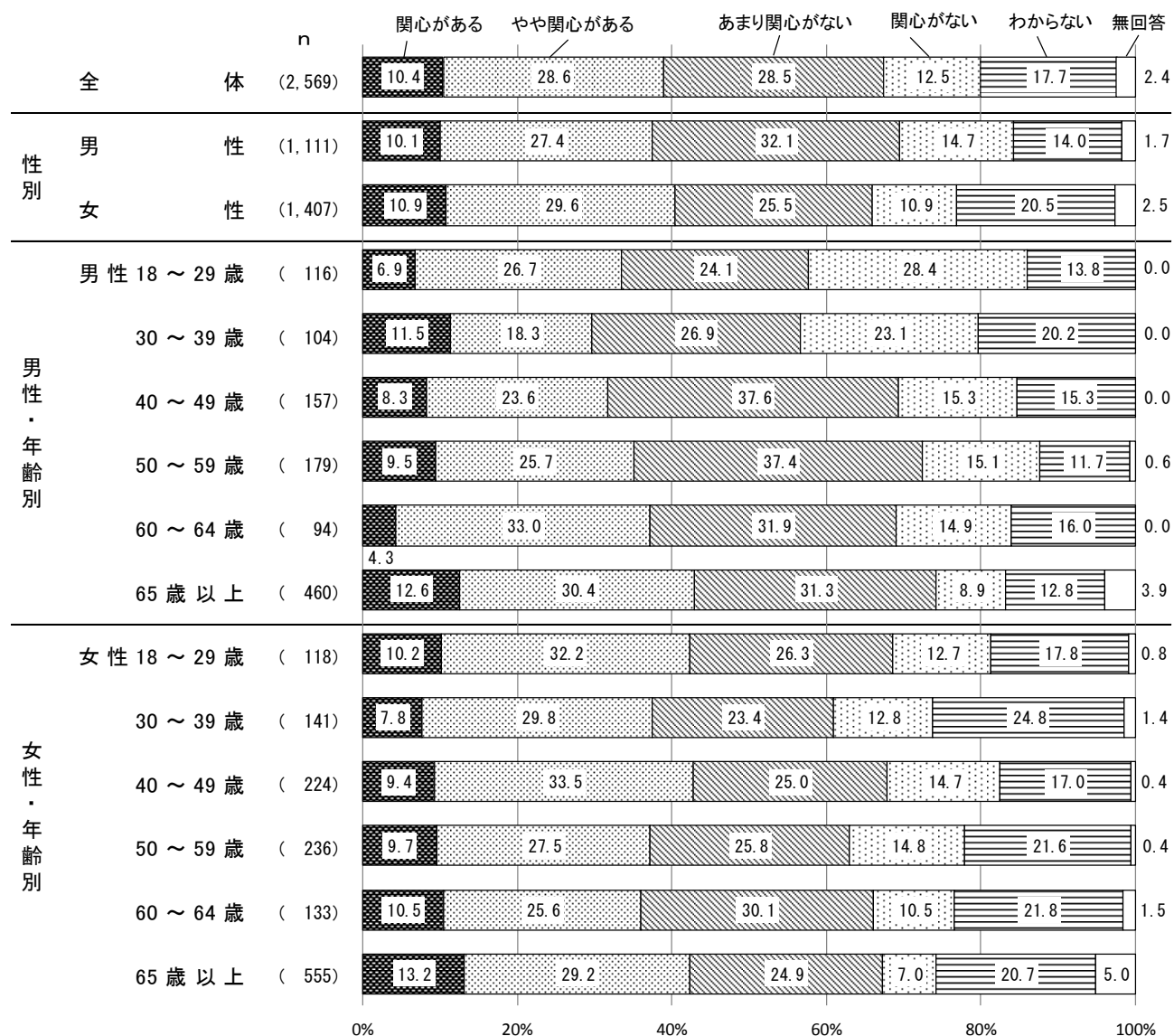
図3-5-1 障害者スポーツへの関心-全体



障害者スポーツへの関心の有無を聞いたところ、「関心がある」(10.4%)と「やや関心がある」(28.6%)を合わせた《関心がある》(39.0%)は4割弱となっている。一方、「あまり関心がない」(28.5%)と「関心がない」(12.5%)を合わせた《関心がない》(41.0%)は4割強となっている。

前回の調査と比較すると、《関心がある》は平成30年(2018年)(36.5%)より2.5ポイント増加している。(図3-5-1)

図3-5-2 障害者スポーツへの関心—性別、性・年齢別

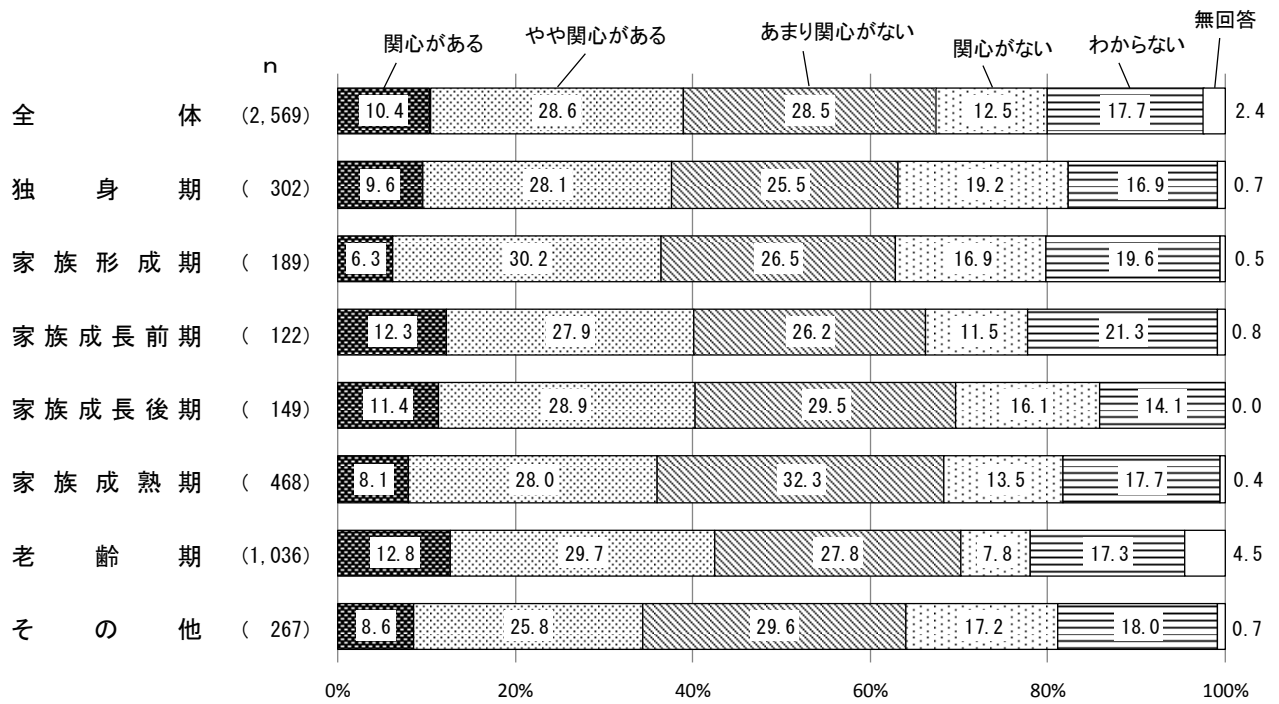


性別にみると、《関心がない》は男性（46.8%）が女性（36.4%）より10.4ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、男性40～49歳は《関心がない》（52.9%）が5割強で最も多くなっている。

（図3-5-2）

図3-5-3 障害者スポーツへの関心—ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「関心がある」は老齢期（42.5%）で4割強と多くなっており、その他（34.4%）で3割台半ばと最も少なくなっている。（図3-5-3）

## (6) かかりつけの医療機関の有無

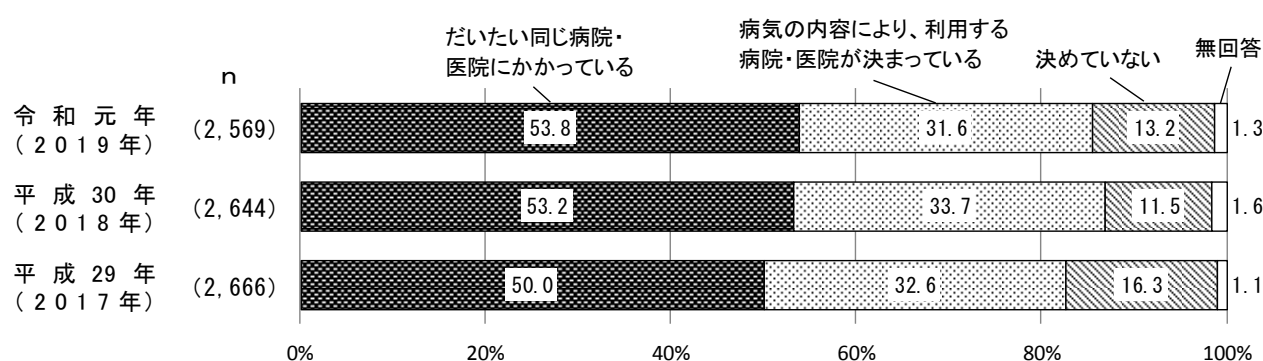
◇《かかりつけの医療機関を決めている》が8割台半ば

問19 あなたは、かかりつけの医療機関を決めていますか。(○は1つだけ)

※「かかりつけの医療機関」とは・・・

日常的な診療や健康管理等を行ってくれる身近な医療機関のことで、ふだんの健康管理、病気の初期治療のほか、大病院での検査や治療が必要かどうかの判断、紹介などをしてくれます。

図3-6-1 かかりつけの医療機関の有無－全体、経年比較

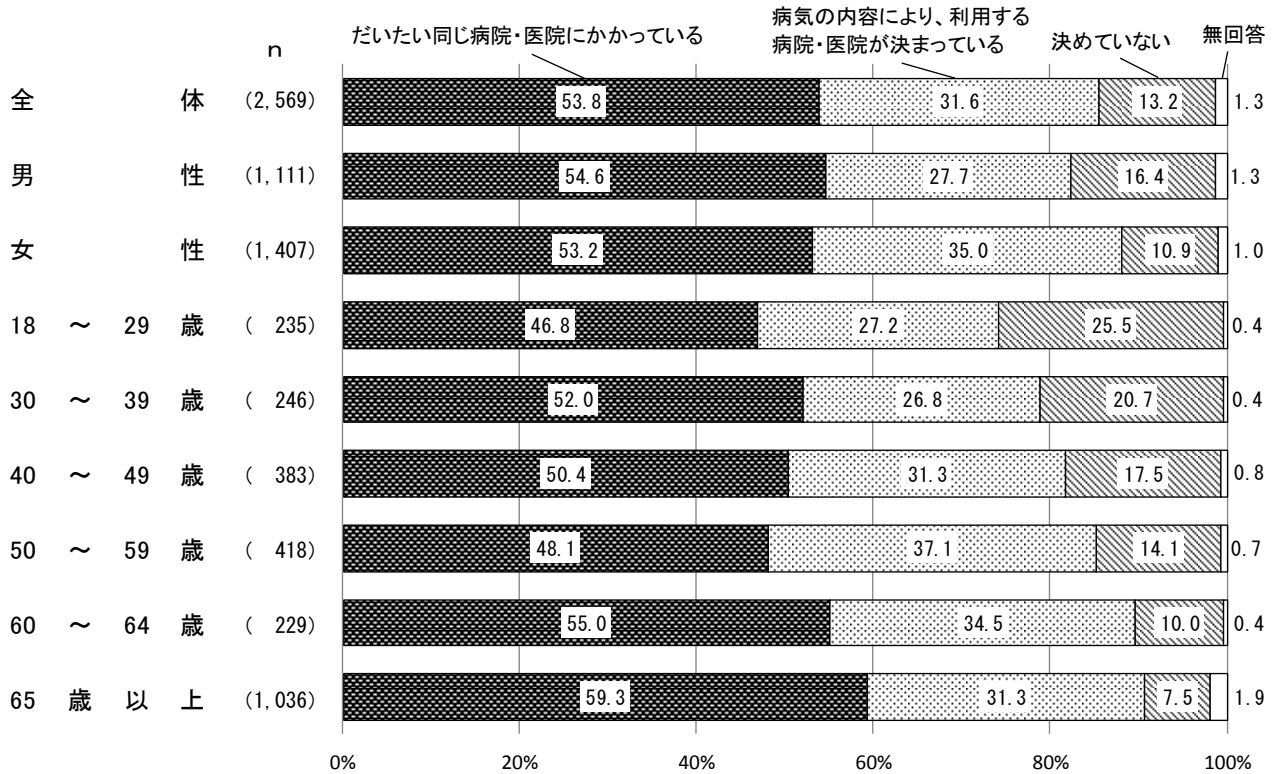


かかりつけの医療機関を決めているか聞いたところ、「だいたい同じ病院・医院にかかっている」(53.8%)が最も多く5割強となっている。これに「病気の内容により、利用する病院・医院が決まっている」(31.6%)を合わせた《かかりつけの医療機関を決めている》(85.4%)は8割台半ばとなっている。一方、「決めていない」(13.2%)は1割強となっている。

前回までの調査と比較すると、《かかりつけの医療機関を決めている》は平成30年(2018年)(86.9%)より1.5ポイント減少している。(図3-6-1)



図3-6-2 かかりつけの医療機関の有無－性別、年齢別

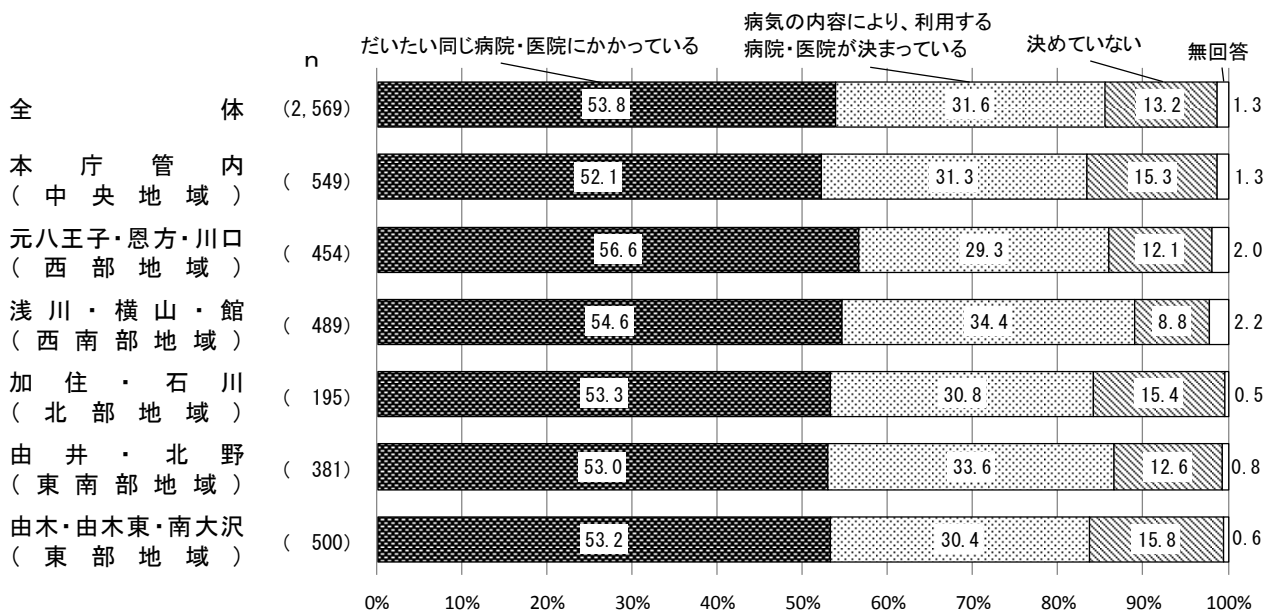


性別にみると、「かかりつけの医療機関を決めている」は女性（88.2%）が男性（82.3%）より5.9ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「かかりつけの医療機関を決めている」は65歳以上（90.6%）で約9割と多くなっている。一方、「決めていない」は18～29歳（25.5%）で2割台半ばと最も多くなっている。

(図3-6-2)

図3-6-3 かかりつけの医療機関の有無－居住地域別



居住地域別にみると、「かかりつけの医療機関を決めている」が浅川・横山・館（西南部地域）（89.0%）で9割弱と多くなっている。(図3-6-3)

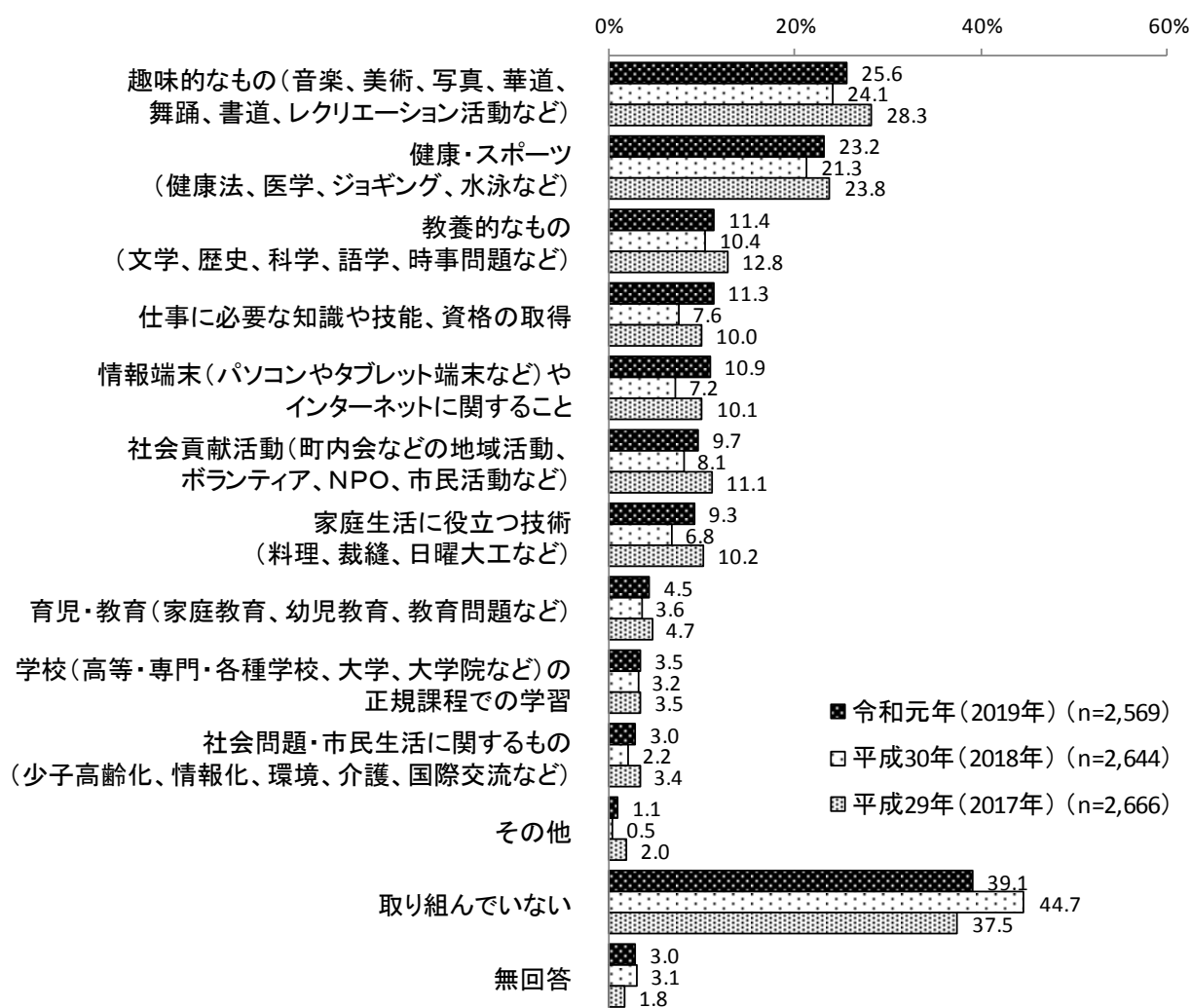
## (7) この1年間に取り組んだ生涯学習活動

◇「趣味的なもの(音楽、美術、写真、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動など)」が2割台半ば

問20 あなたは、この1年間に、次のうちどのような生涯学習活動に取り組みましたか。

(○はいくつでも)

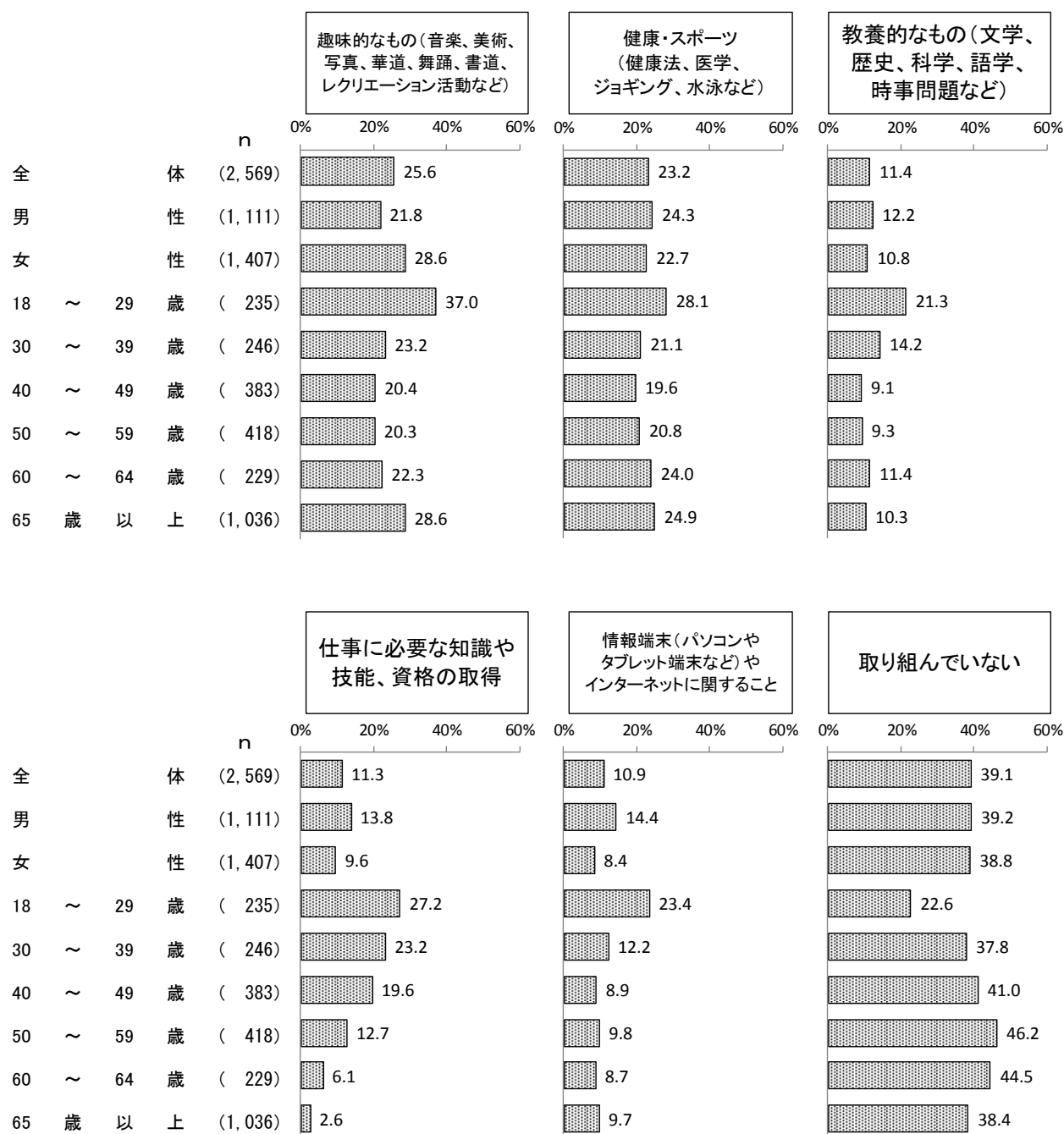
図3-7-1 この1年間に取り組んだ生涯学習活動—全体、経年比較



この1年間に取り組んだ生涯学習活動を聞いたところ、「取り組んでいない」(39.1%)を除くと、「趣味的なもの(音楽、美術、写真、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動など)」(25.6%)が最も多く2割台半ばとなっている。次いで「健康・スポーツ(健康法、医学、ジョギング、水泳など)」(23.2%)が2割強で続き、以下「教養的なもの(文学、歴史、科学、語学、時事問題など)」(11.4%)などの順となっている。

前回までの調査と比較すると、生涯学習活動各項目の回答比率は上位項目を中心に、すべての項目で平成30年(2018年)の比率を上回り、「取り組んでいない」が平成30年(2018年)(44.7%)より5.6ポイント減少する結果となっている。ただし、各項目の回答比率の順位に経年変化はほとんどみられない。(図3-7-1)

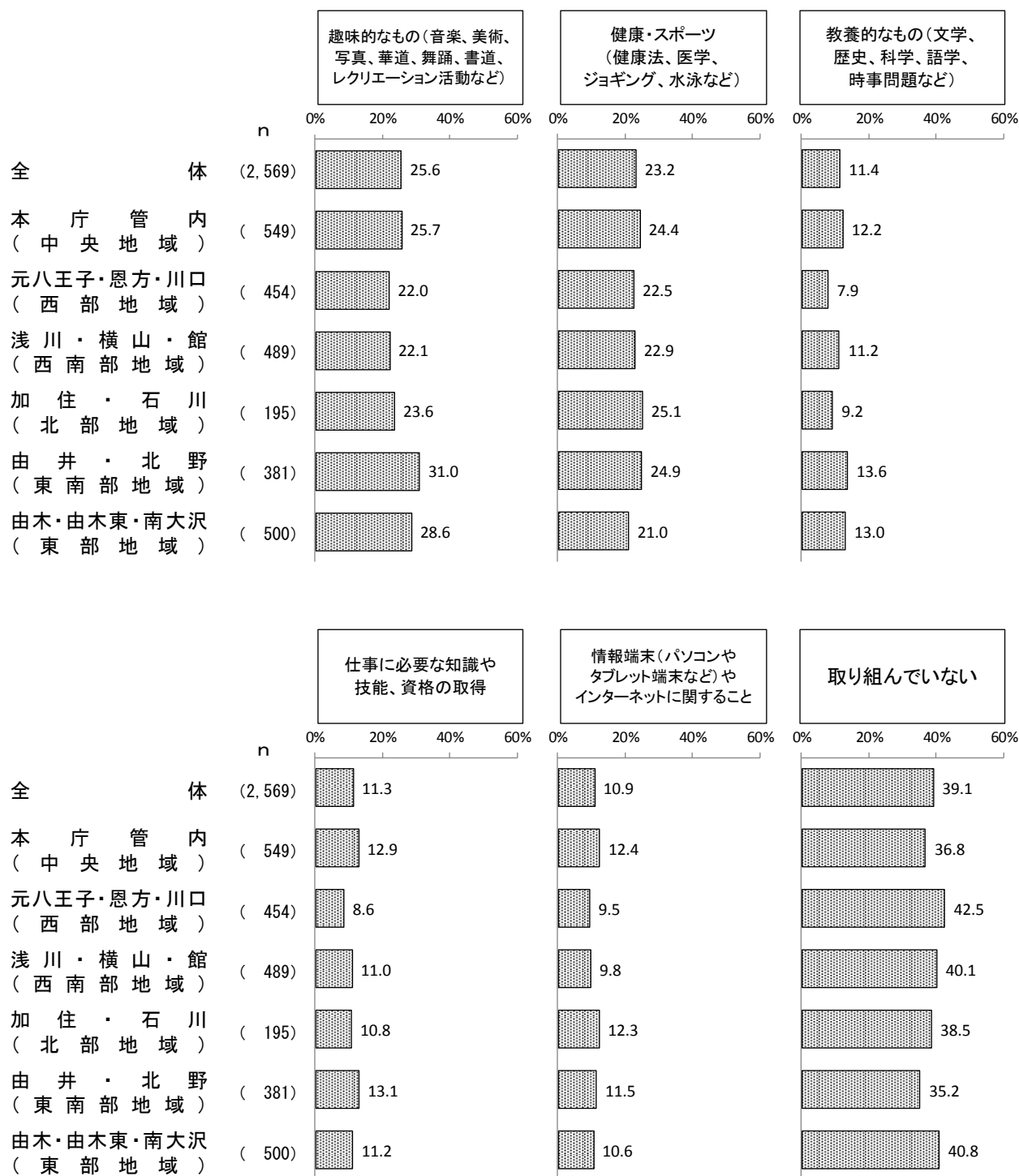
図3-7-2 この1年間に取り組んだ生涯学習活動—性別、年齢別（上位5位+「取り組んでいない」）



性別にみると、「趣味的なもの（音楽、美術、写真、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動など）」は女性（28.6%）が男性（21.8%）より6.8ポイント高くなっているが、「情報端末（パソコンやタブレット端末など）やインターネットに関すること」は男性（14.4%）が女性（8.4%）より6.0ポイント高く、「仕事に必要な知識や技能、資格の取得」も男性（13.8%）が女性（9.6%）より4.2ポイント高くなっている。

年齢別にみると、いずれの項目も18～29歳で最も多くなっている。「取り組んでいない」は50～59歳（46.2%）で多くなっている。（図3-7-2）

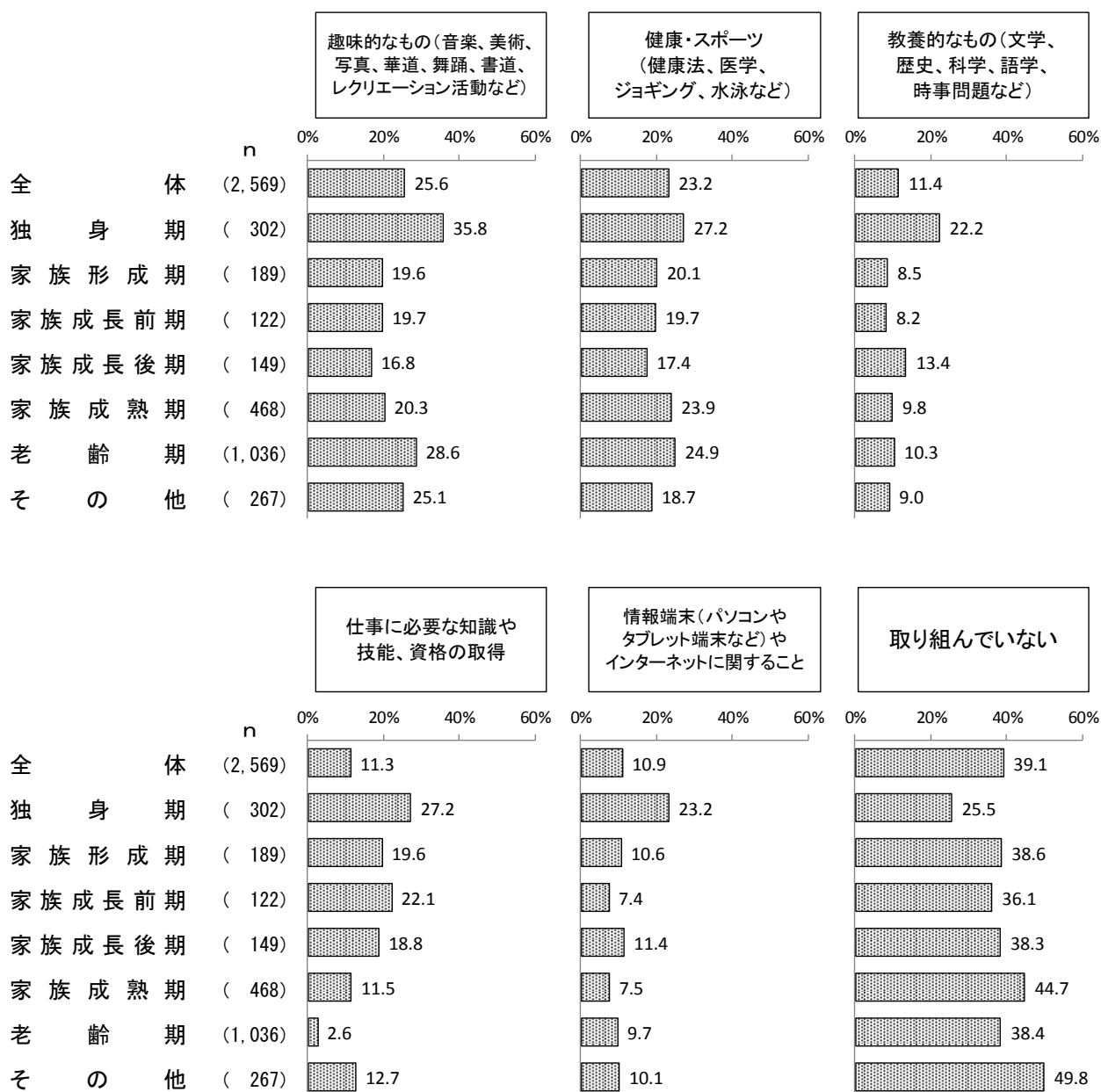
図3-7-3 この1年間に取り組んだ生涯学習活動—居住地域別（上位5位＋「取り組んでいない」）



居住地域別にみると、「趣味的なもの（音楽、美術、写真、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動など）」は由井・北野（東南部地域）（31.0%）が3割強で多く、元八王子・恩方・川口（西部地域）（22.0%）で2割強と少なくなっている。一方、「取り組んでいない」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（42.5%）が4割強と多くなっている。（図3-7-3）

図3-7-4 この1年間に取り組んだ生涯学習活動－ライフステージ別

(上位5位+「取り組んでいない」)



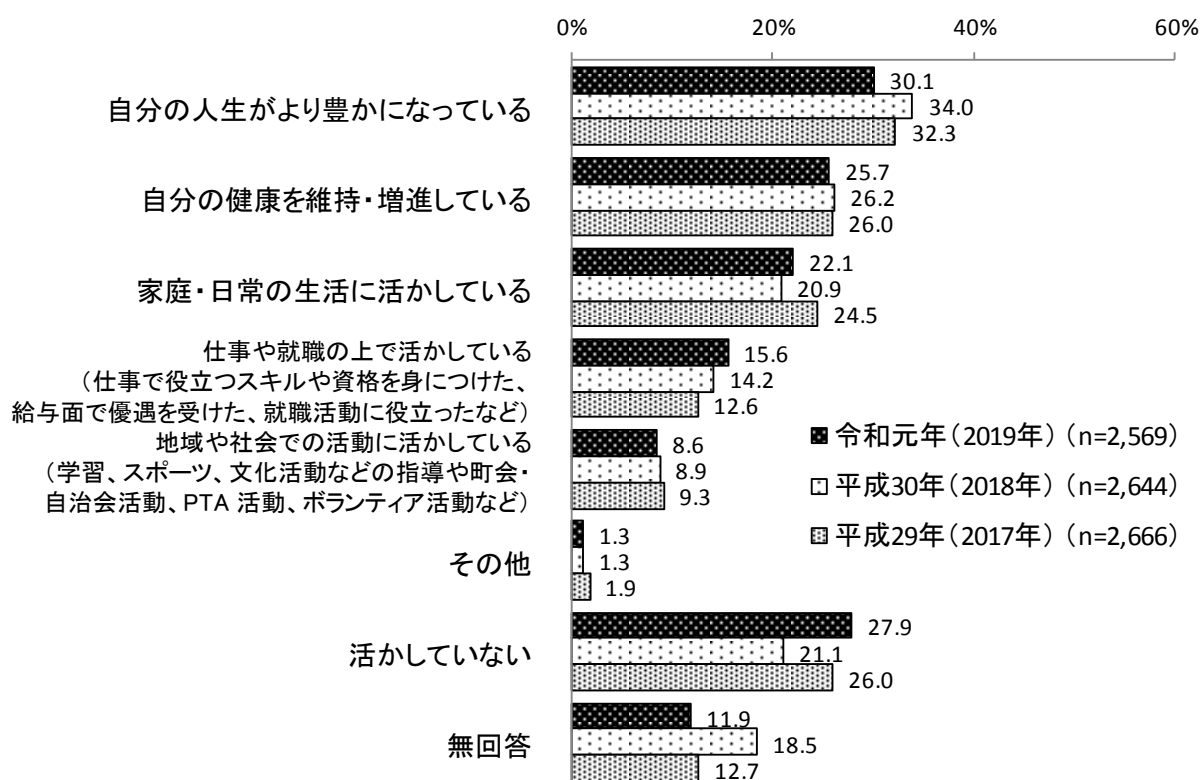
ライフステージ別にみると、いずれの項目も独身期で最も多くなっている。一方、「取り組んでいない」はその他 (49.8%) で5割弱と多くなっている。(図3-7-4)

## (8) 生涯学習で得た知識や技能、経験の活用方法

◇「自分の人生がより豊かになっている」が約3割

問21 あなたは、生涯学習で得た知識や技能、経験をどのように活かしていますか。(〇はいくつでも)

図3-8-1 生涯学習で得た知識や技能、経験の活用方法—全体、経年比較

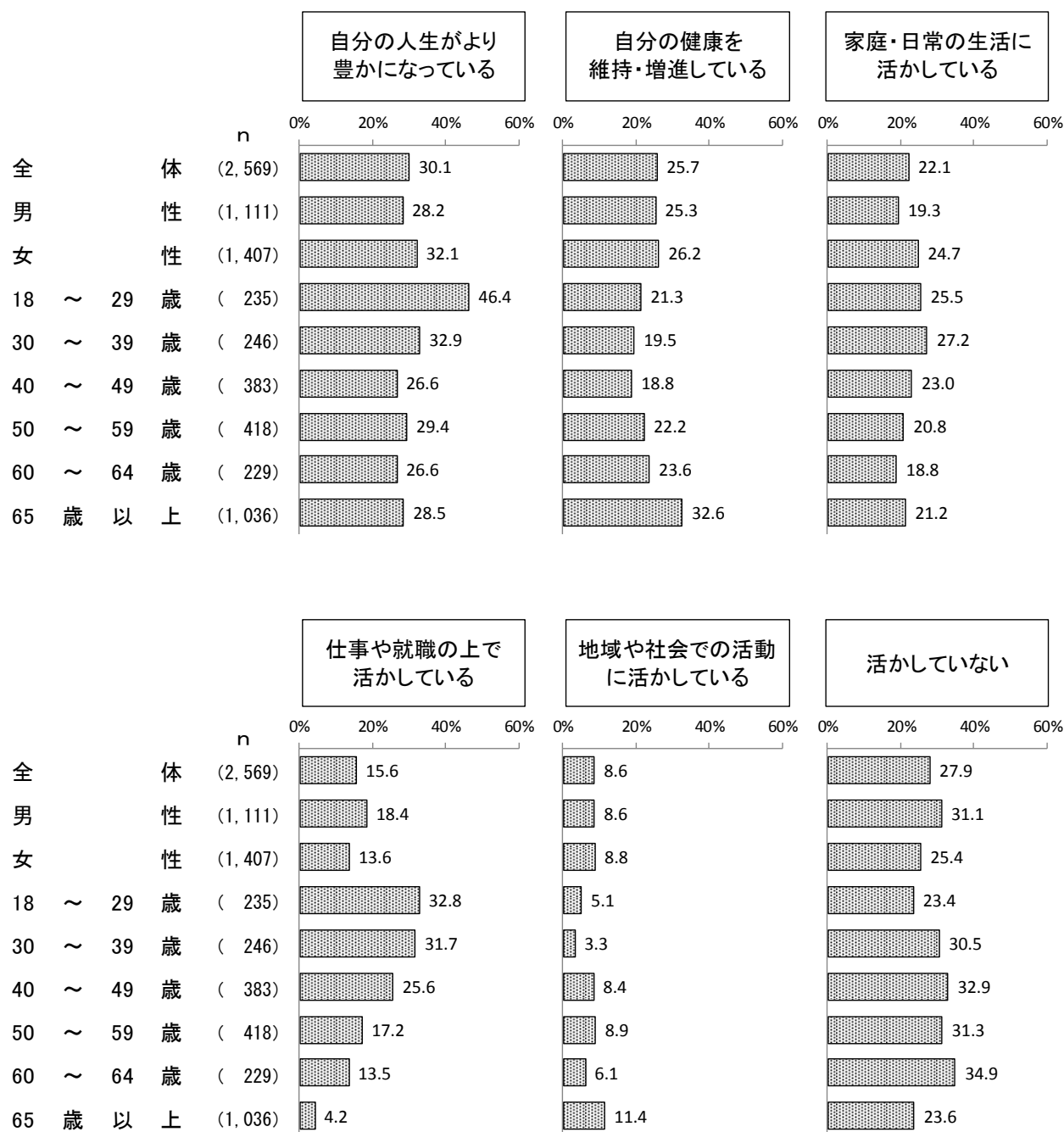


(注1) 平成29年(2017年)のみ、上記の選択肢に加えて「団体や市民間のネットワークづくりに活かしている」(1.7%)が追加されていた。

生涯学習で得た知識や技能、経験をどのように活かしているか聞いたところ、「自分の人生がより豊かになっている」(30.1%)が約3割と最も多くなっている。以下「自分の健康を維持・増進している」(25.7%)、「家庭・日常の生活に活かしている」(22.1%)、「仕事や就職の上で活かしている」(15.6%)などの順となっている。一方、「活かしていない」(27.9%)も3割近くと多くなっている。

前回までの調査と比較すると、「自分の人生がより豊かになっている」は平成30年(2018年)(34.0%)より3.9ポイント減少している。また、「活かしていない」は平成30年(2018年)(21.1%)より6.8ポイント増加している。(図3-8-1)

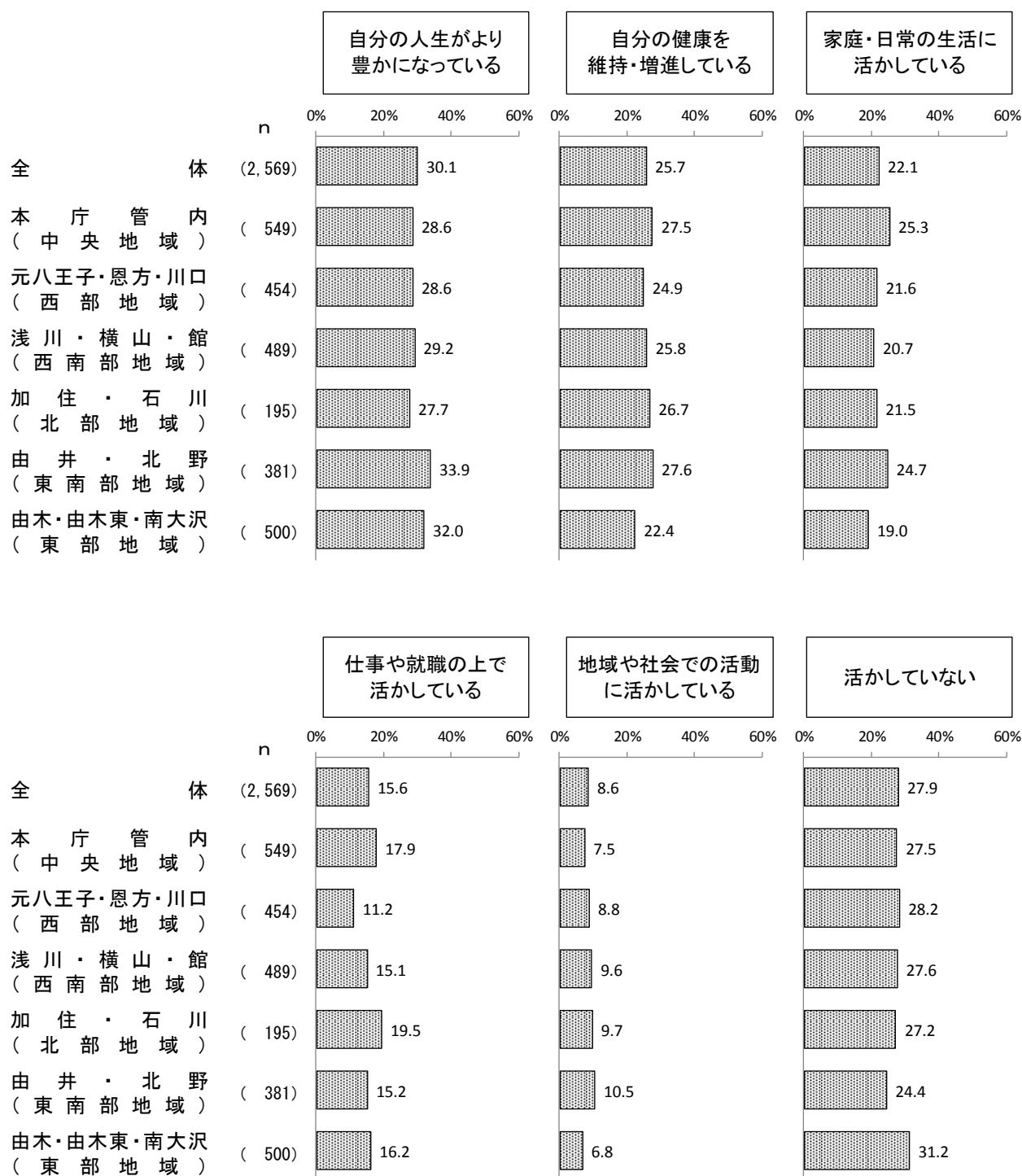
図3-8-2 生涯学習で得た知識や技能、経験の活用方法  
 -性別、年齢別（上位5位+「活かしていない」）



性別にみると、「家庭・日常の生活に活かしている」は女性（24.7%）が男性（19.3%）より5.4ポイント高くなっているが、「活かしていない」は男性（31.1%）が女性（25.4%）より5.7ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「自分の人生がより豊かになっている」は18～29歳（46.4%）で5割近くと多く、「自分の健康を維持・増進している」は65歳以上（32.6%）で3割強と多くなっている。「仕事や就職の上で活かしている」は低い年代ほど割合が高くなっており、18～29歳（32.8%）で3割強と多くなっている。（図3-8-2）

図3-8-3 生涯学習で得た知識や技能、経験の活用方法  
 -居住地地域別（上位5位+「活かしていない」）

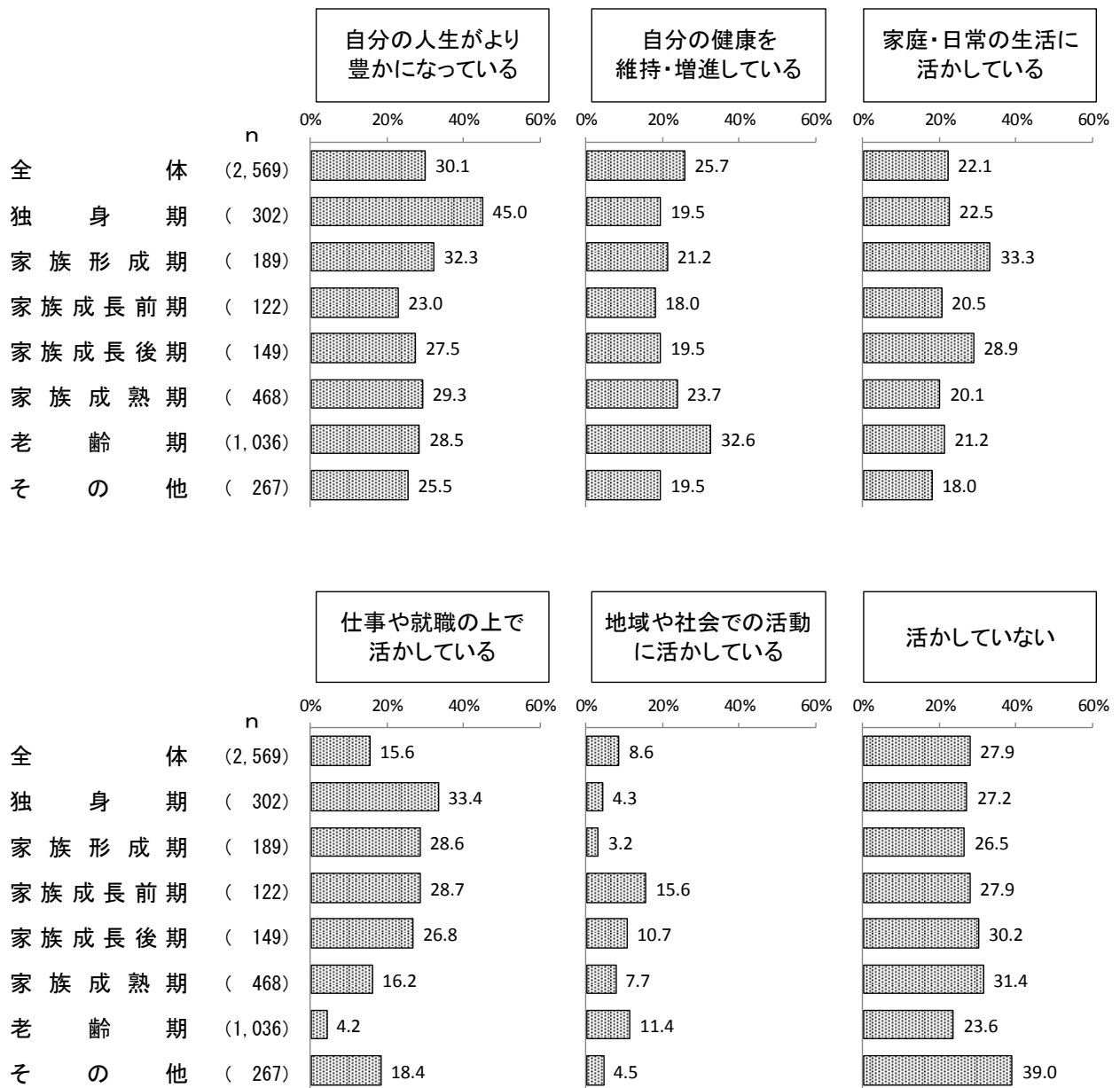


居住地地域別にみると、「自分の人生がより豊かになっている」は由井・北野（東南部地域）（33.9%）で3割強と多くなっている。（図3-8-3）



図3-8-4 生涯学習で得た知識や技能、経験の活用方法

—ライフステージ別（上位5位+「活かしていない」）



ライフステージ別にみると、「自分の人生がより豊かになっている」は独身期（45.0%）で4割台半ばと多く、独身期は「仕事や就職の上で活かしている」（33.4%）も3割強と多くなっている。「自分の健康を維持・増進している」は老齢期（32.6%）で3割強と多くなっている。「地域や社会での活動に活かしている」は家族成長前期（15.6%）で1割台半ばと多くなっている。「活かしていない」はその他（39.0%）で4割弱と多くなっている。（図3-8-4）

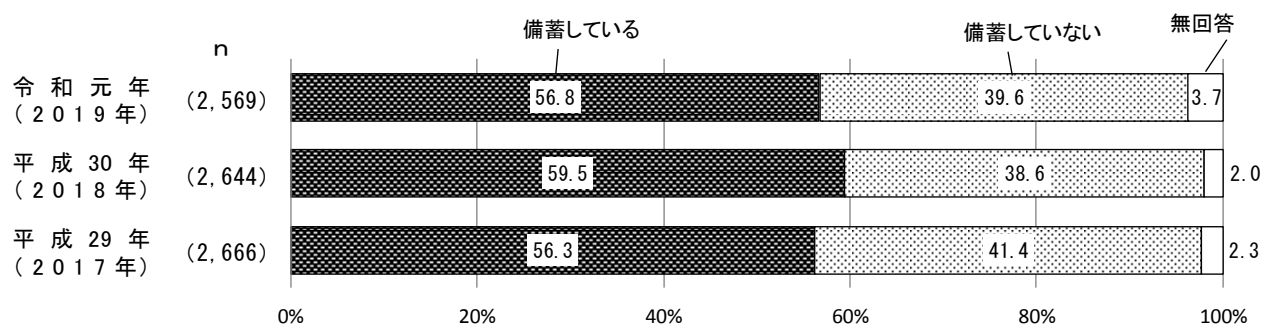
## (9) 食料の備蓄の有無

◇「備蓄している」が6割近く

問22 あなたの家庭では、災害により電気、水道、ガス等といったライフラインが停止したことを想定して、食料、飲料水を備蓄していますか。

【1. 食料について】(○は1つだけ)

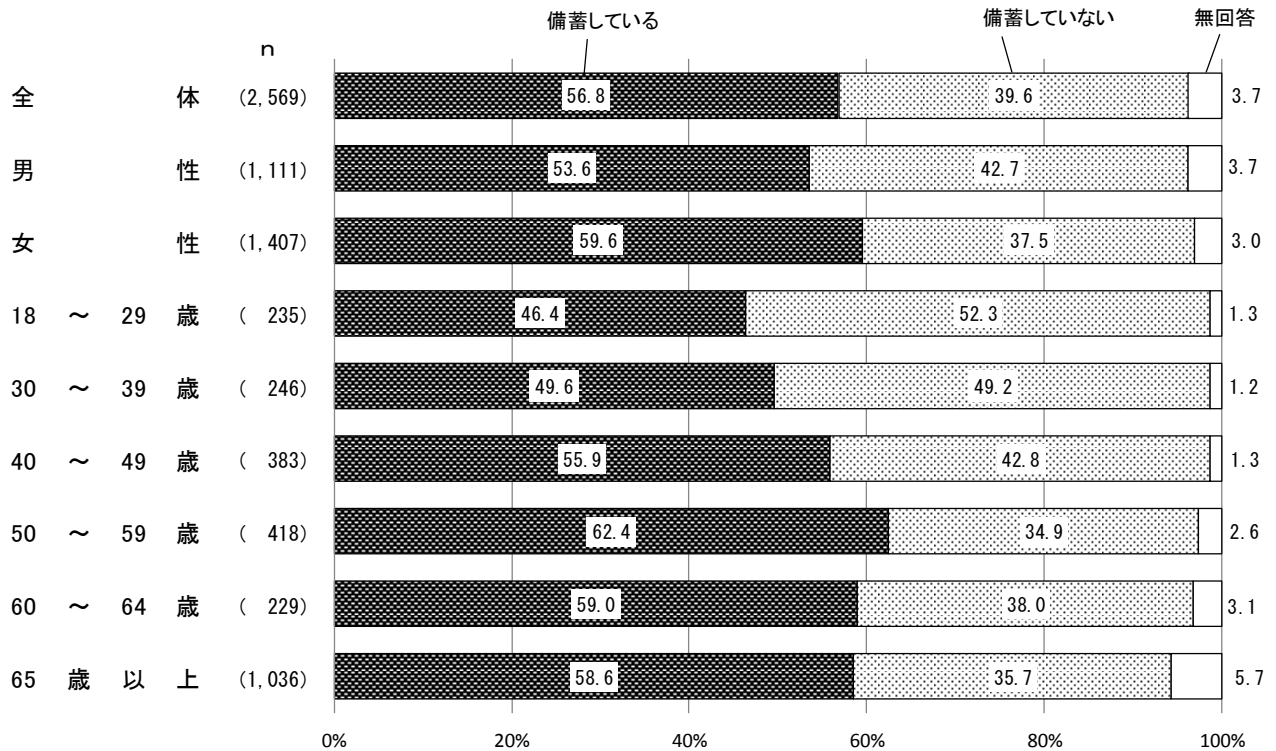
図3-9-1 食料の備蓄の有無-全体、経年比較



災害により電気、水道、ガス等といったライフラインが停止したことを想定して食料を備蓄しているか聞いたところ、「備蓄している」(56.8%)が6割近くとなっている。一方、「備蓄していない」(39.6%)は4割弱となっている。

前回までの調査と比較すると、「備蓄している」は平成30年(2018年)(59.5%)より2.7ポイント減少している。(図3-9-1)

図 3-9-2 食料の備蓄の有無—性別、年齢別

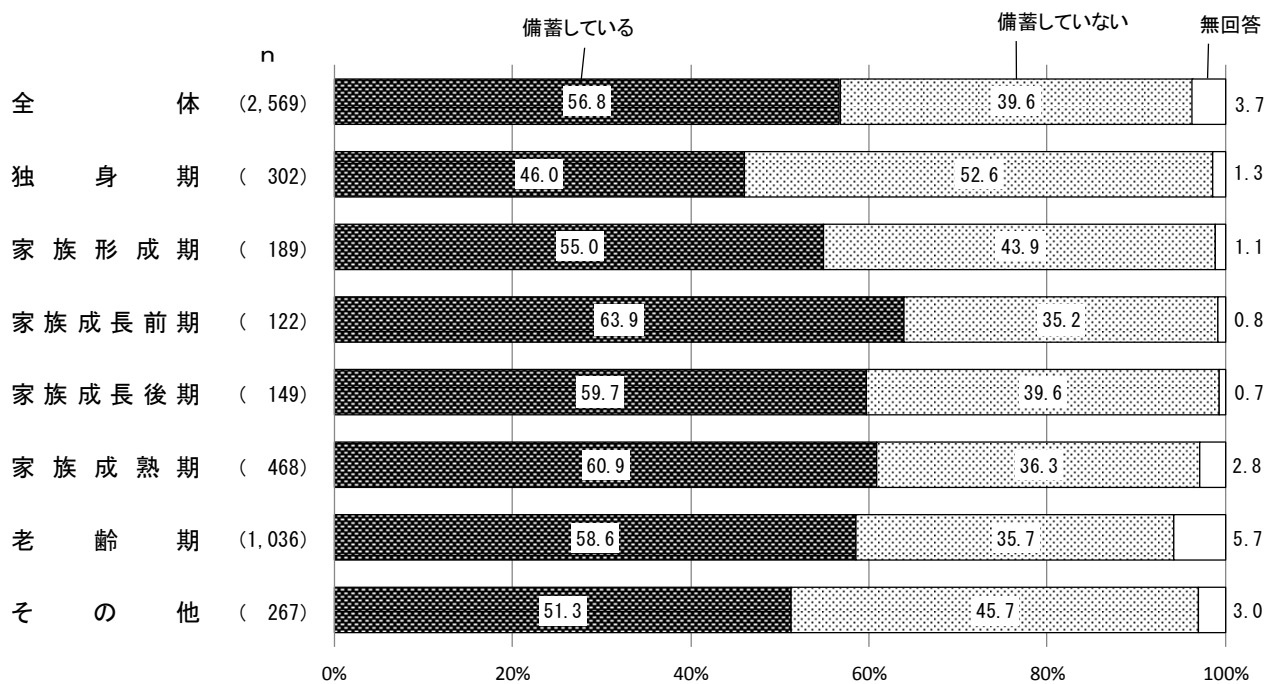


性別にみると、「備蓄している」は女性（59.6%）が男性（53.6%）より6.0ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「備蓄している」は18～29歳（46.4%）で5割近くと少なくなっている。

(図 3-9-2)

図 3-9-3 食料の備蓄の有無—ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「備蓄している」は家族成長前期（63.9%）で6割強と多く、独身期（46.0%）で5割近くと少なくなっている。(図 3-9-3)

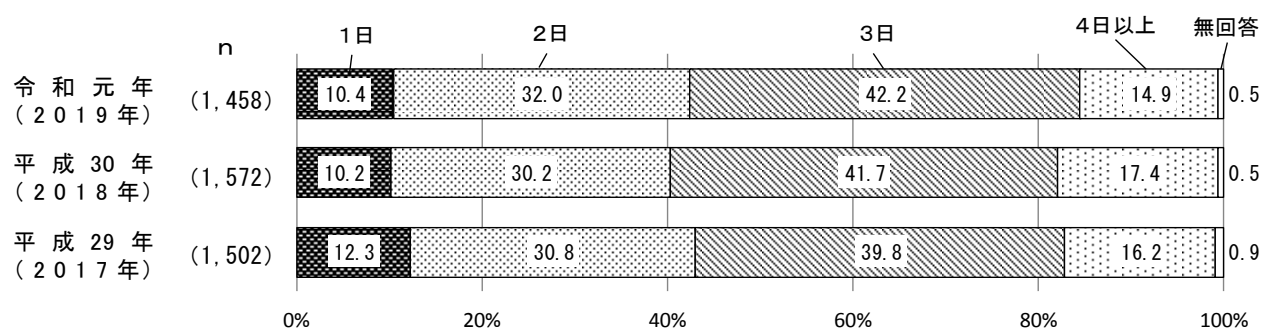
## (10) 食料の備蓄量

◇「3日」が4割強

(食料を「備蓄している」とお答えの方へ)

問22-1-1 家族が何日間過ごせる分の食料を備蓄していますか。(〇は1つだけ)

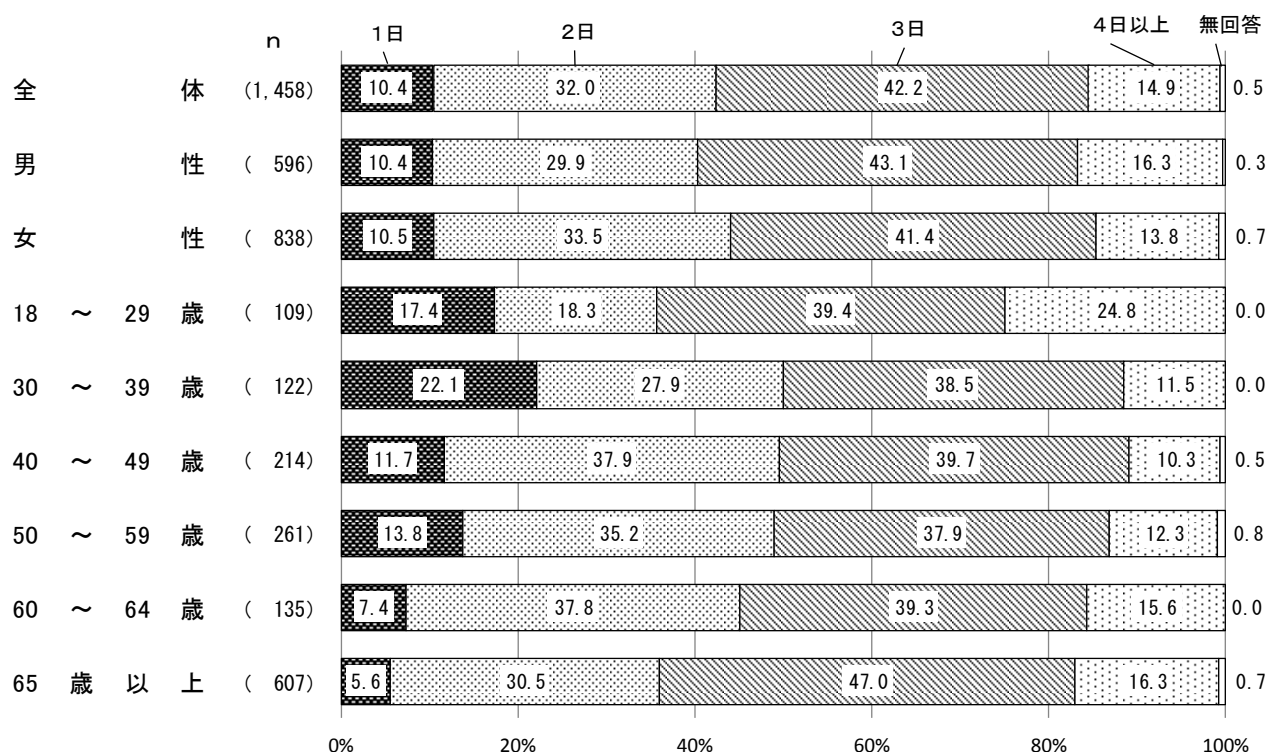
図3-10-1 食料の備蓄量-全体、経年比較



食料を「備蓄している」と回答した1,458人に、家族が何日間過ごせる分の食料を備蓄しているか聞いたところ、「3日」(42.2%)が最も多く4割強となっている。次いで「2日」(32.0%)が3割強で続き、以下「4日以上」(14.9%)が1割台半ば、「1日」(10.4%)が約1割となっている。

前回までの調査と比較すると、「4日以上」は平成30年(2018年)(17.4%)より2.5ポイント減少している。(図3-10-1)

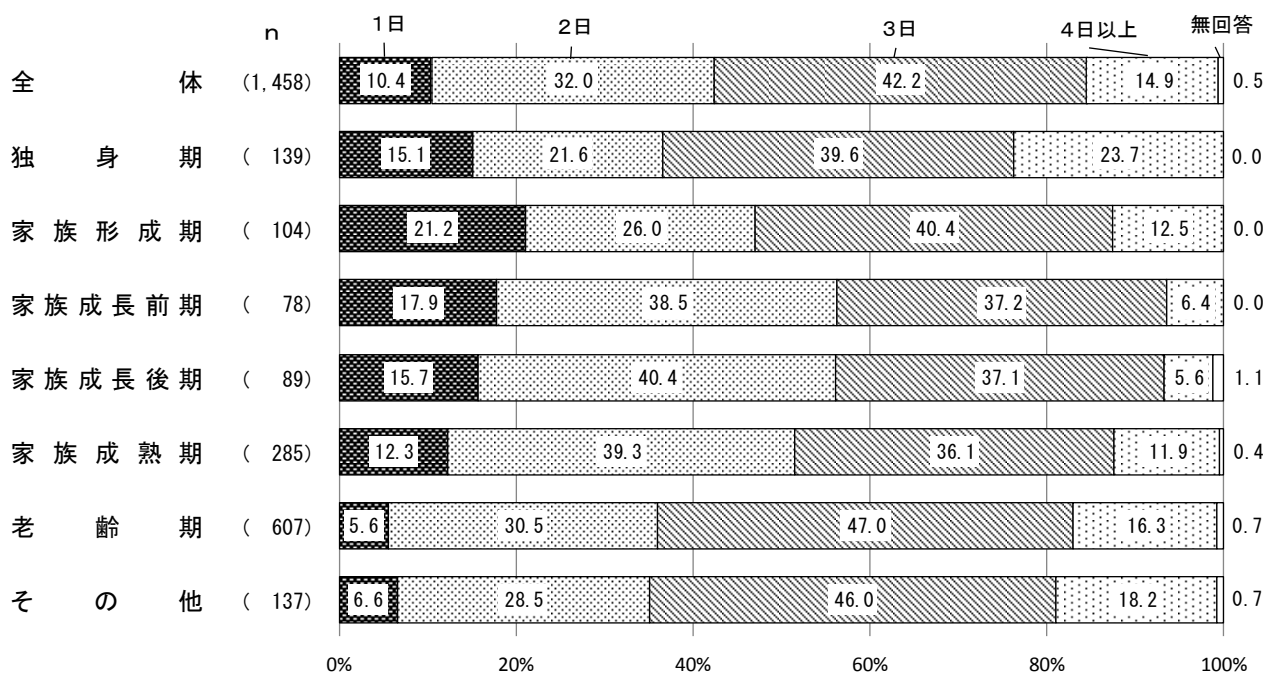
図3-10-2 食料の備蓄量－性別、年齢別



性別にみると、「2日」で女性（33.5%）が男性（29.9%）より3.6ポイント高くなっているのを除くと、大きな傾向の違いはみられない。

年齢別にみると、「3日」は65歳以上（47.0%）で5割近くと多くなっており、「4日以上」は18～29歳（24.8%）で2割台半ばと多くなっている。（図3-10-2）

図3-10-3 食料の備蓄量－ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「1日」は家族形成期（21.2%）で2割強と多く、「2日」は家族成長後期（40.4%）で約4割と多くなっており、「3日」は老齢期（47.0%）で5割近くと多くなっている。（図3-10-3）

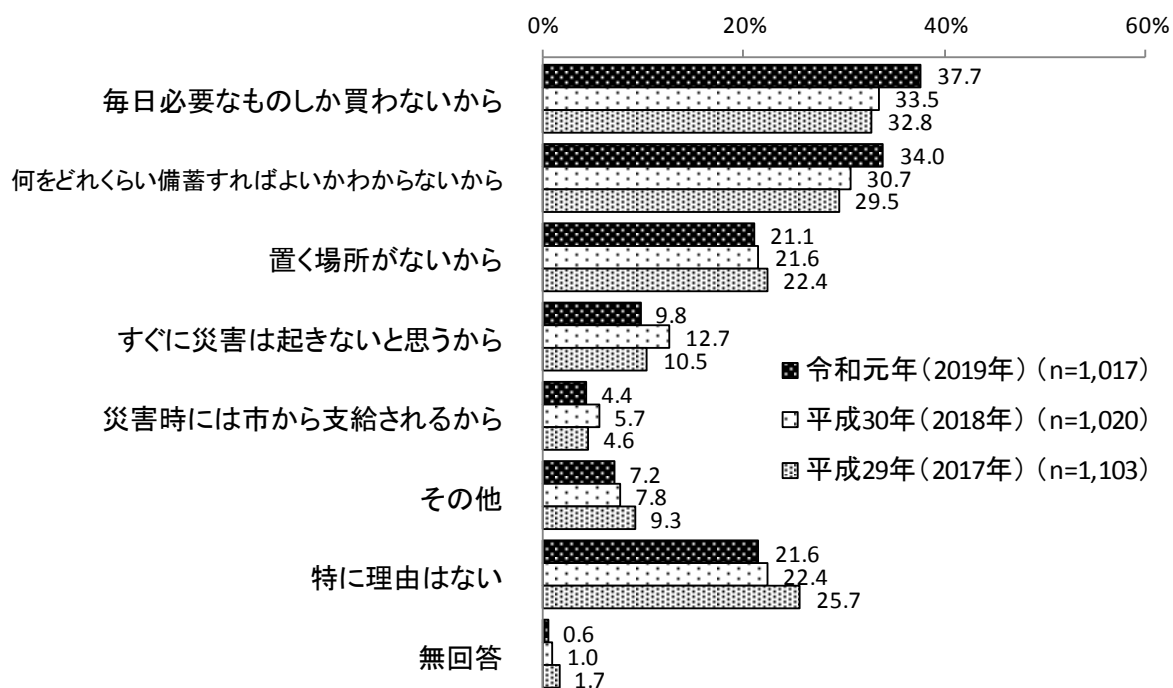
## (11) 食料を備蓄していない理由

◇「毎日必要なものしか買わないから」が4割近く

(食料を「備蓄していない」とお答えの方へ)

問22-1-2 食料を備蓄していない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

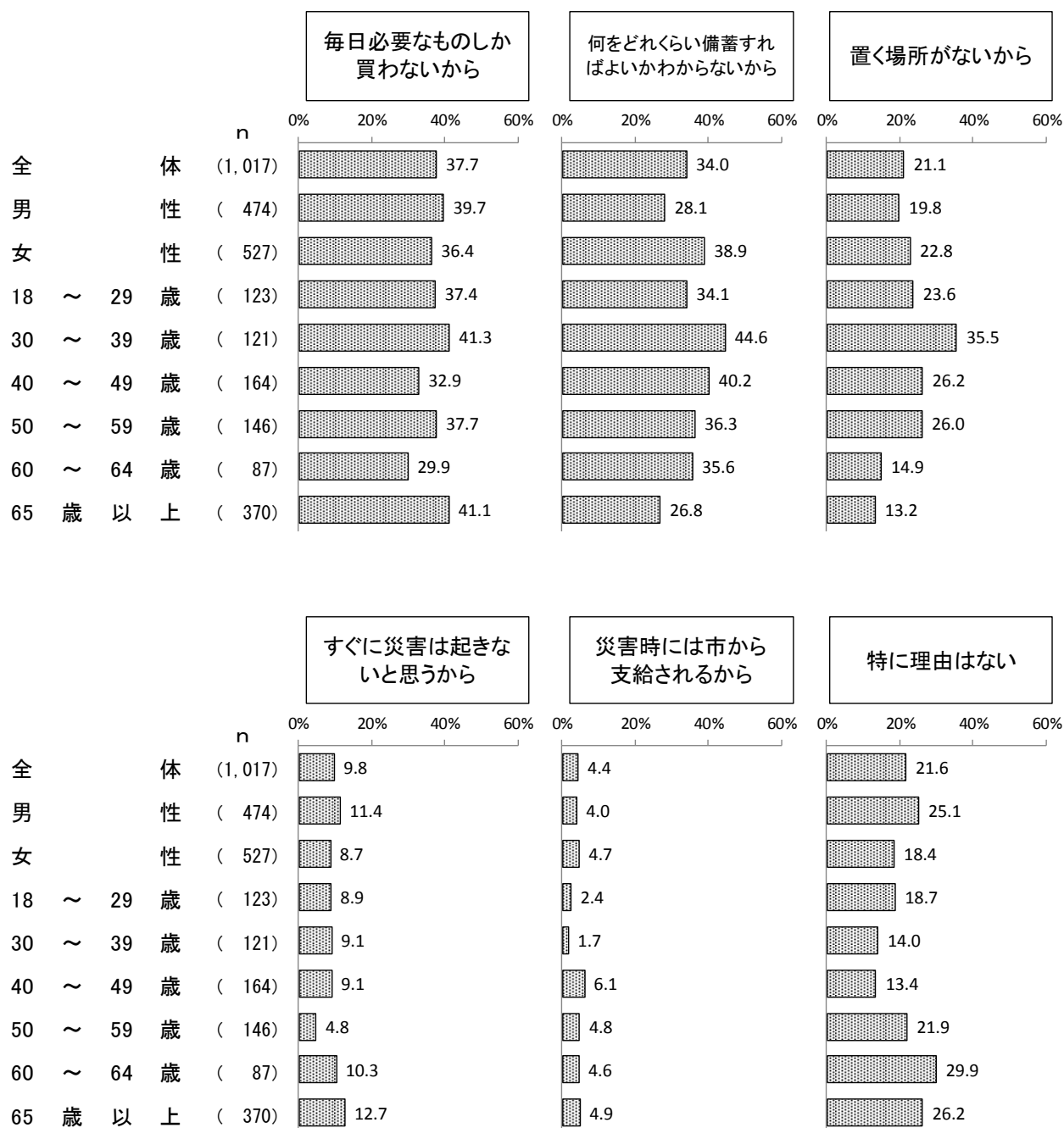
図3-11-1 食料を備蓄していない理由—全体、経年比較



食料を「備蓄していない」と回答した1,017人に、その理由を聞いたところ、「毎日必要なものしか買わないから」(37.7%)が最も多く4割近くとなっている。次いで「何をどれくらい備蓄すればよいかわからないから」(34.0%)が3割台半ばで続き、以下「置く場所がないから」(21.1%)、「すぐに災害は起きないと思うから」(9.8%)などの順となっている。

前回までの調査と比較すると、「毎日必要なものしか買わないから」は平成30年(2018年)(33.5%)から4.2ポイント増加している。(図3-11-1)

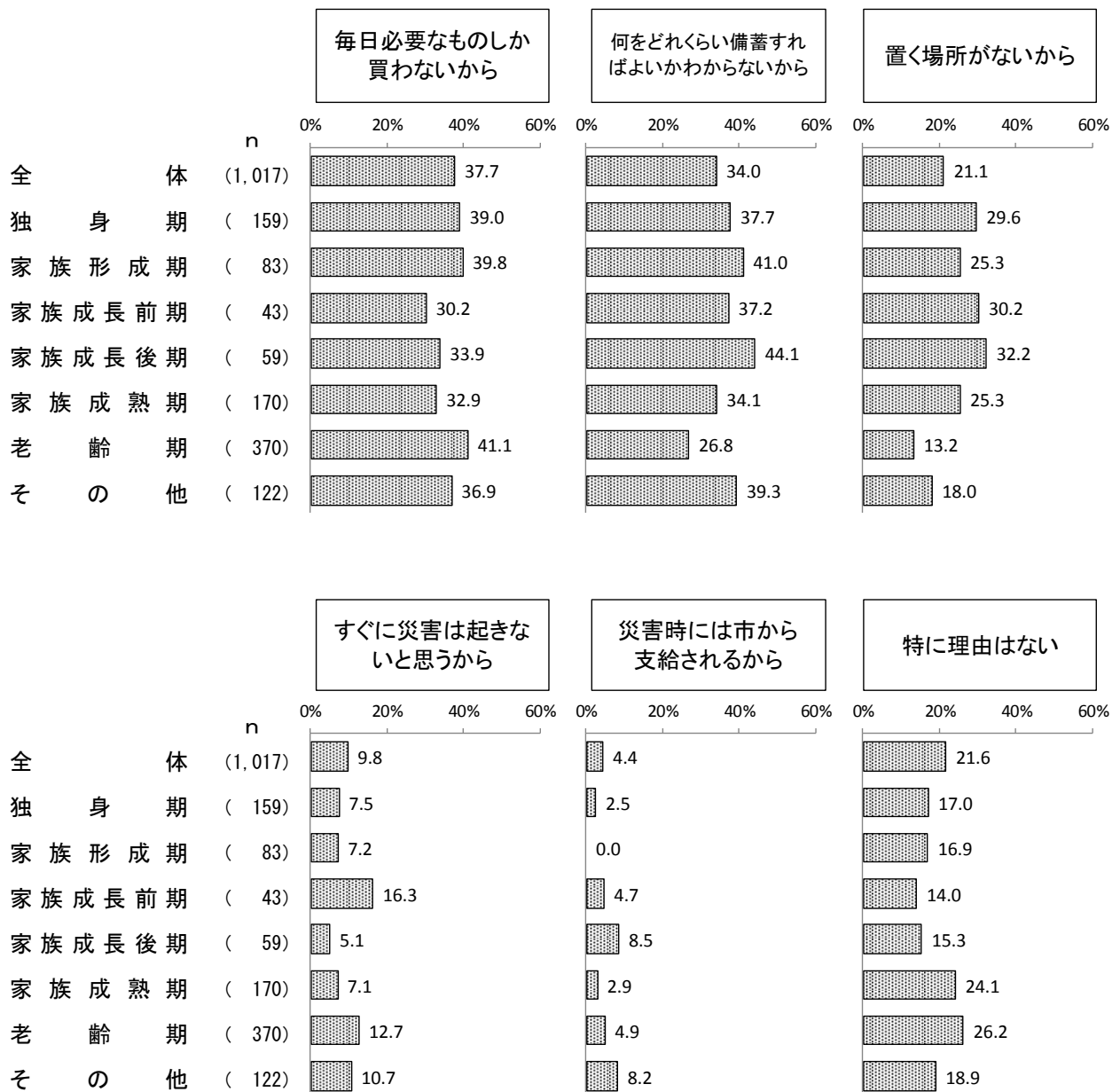
図3-11-2 食料を備蓄していない理由—性別、年齢別（「その他」を除く）



性別にみると、「何をどれくらい備蓄すればよいかわからないから」は女性（38.9%）が男性（28.1%）より10.8ポイント高くなっている。一方、「特に理由はない」は男性（25.1%）が女性（18.4%）より6.7ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「毎日必要なものしか買わないから」は30～39歳（41.3%）と65歳以上（41.1%）の両層で4割強と多い一方、60～64歳（29.9%）は3割弱と少なくなっている。「何をどれくらい備蓄すればよいかわからないから」は30～39歳（44.6%）で4割台半ばと多く、「置く場所がないから」も30～39歳（35.5%）で3割台半ばと多くなっている。（図3-11-2）

図3-11-3 食料を備蓄していない理由－ライフステージ別（「その他」を除く）



ライフステージ別にみると、「何をどれくらい備蓄すればよいかわからないから」は家族成長後期(44.1%)で4割台半ばと多くなっている。「毎日必要なものしか買わないから」は老齢期(41.1%)で4割強と多く、「すぐに災害は起きないと思うから」は家族成長前期(16.3%)で2割近くと多くなっている。なお、「特に理由はない」は老齢期(26.2%)で3割近くと多い一方、家族成長前期(14.0%)では1割台半ばと少なくなっている。(図3-11-3)



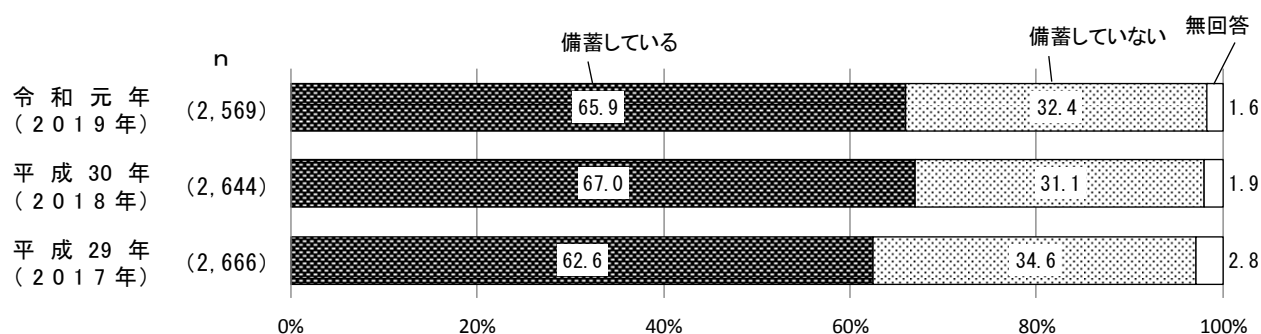
## (12) 飲料水の備蓄の有無

◇「備蓄している」が6割台半ば

問22 あなたの家庭では、災害により電気、水道、ガス等といったライフラインが停止したことを想定して、食料、飲料水を備蓄していますか。

【2. 飲料水について】（○は1つだけ）

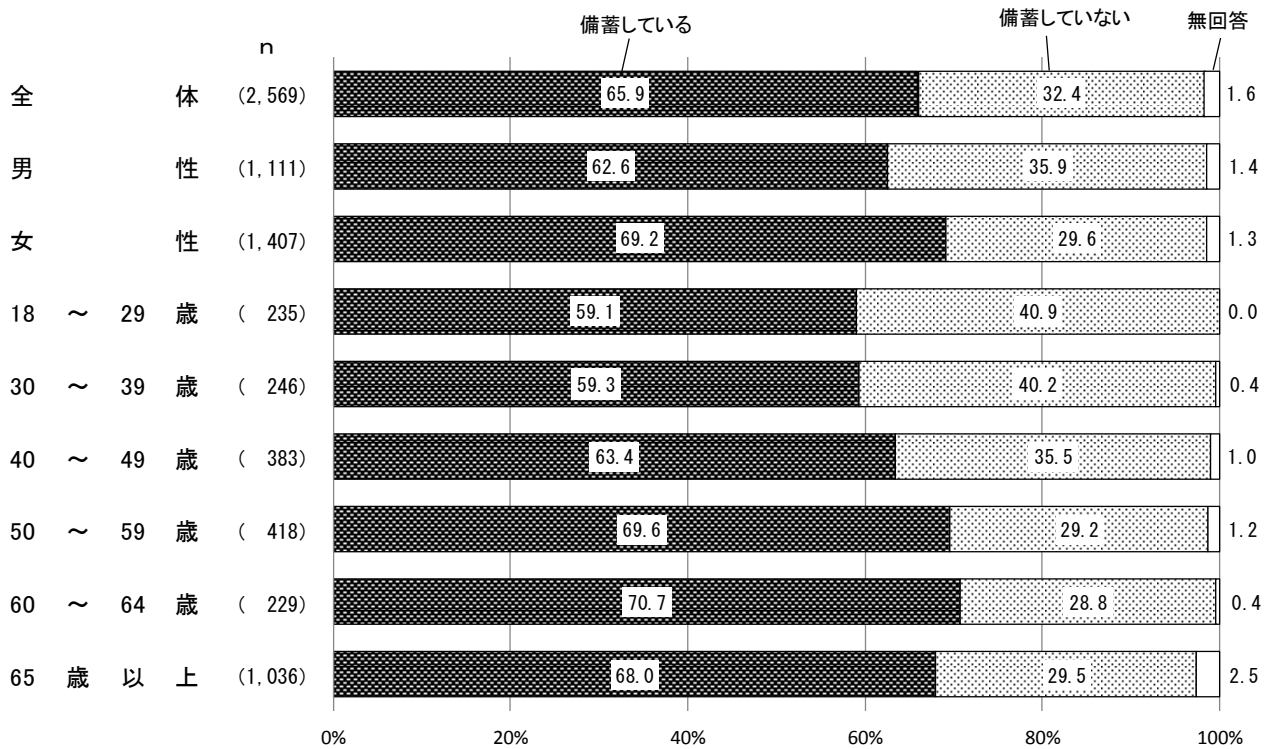
図3-12-1 飲料水の備蓄の有無—全体、経年比較



災害により電気、水道、ガス等といったライフラインが停止したことを想定して飲料水を備蓄しているか聞いたところ、「備蓄している」(65.9%)が6割台半ばとなっている。一方、「備蓄していない」(32.4%)は3割強となっている。

前回までの調査と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。(図3-12-1)

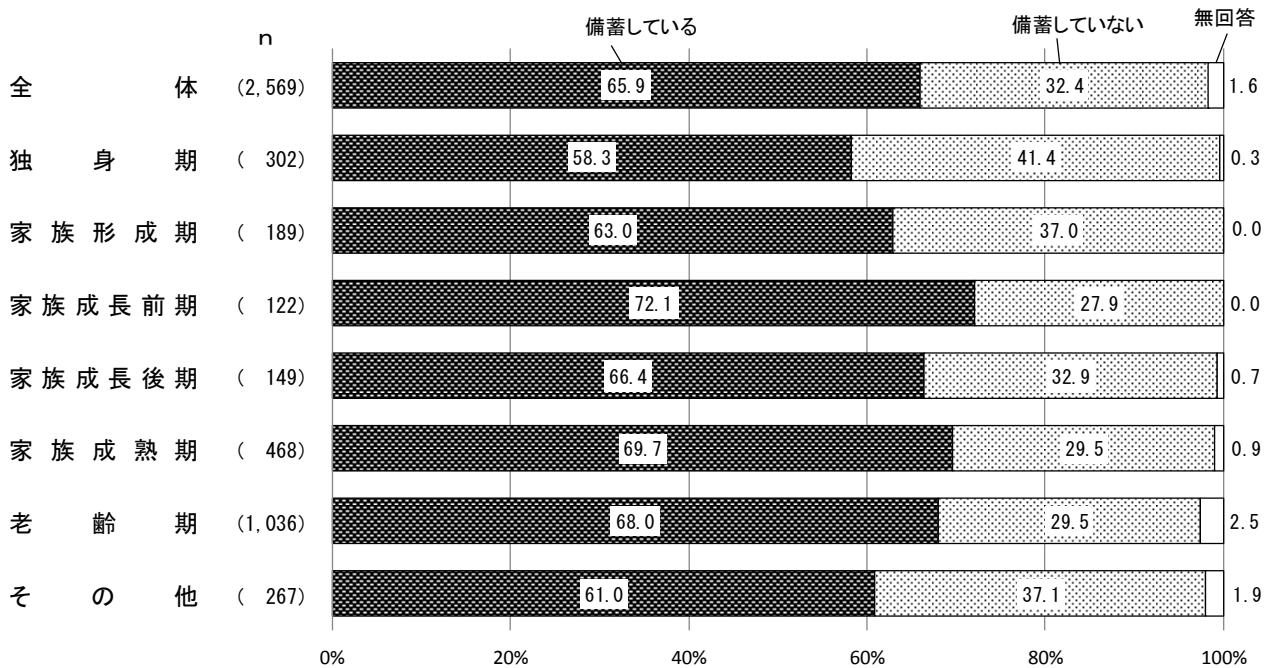
図3-12-2 飲料水の備蓄の有無—性別、年齢別



性別にみると、「備蓄している」は女性（69.2%）が男性（62.6%）より6.6ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「備蓄している」は60～64歳（70.7%）で約7割と多い一方、18～29歳（59.1%）と30～39歳（59.3%）ではともに6割弱と少なくなっている。（図3-12-2）

図3-12-3 飲料水の備蓄の有無—ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「備蓄している」は家族成長前期（72.1%）で7割強と多くなっている。（図3-12-3）

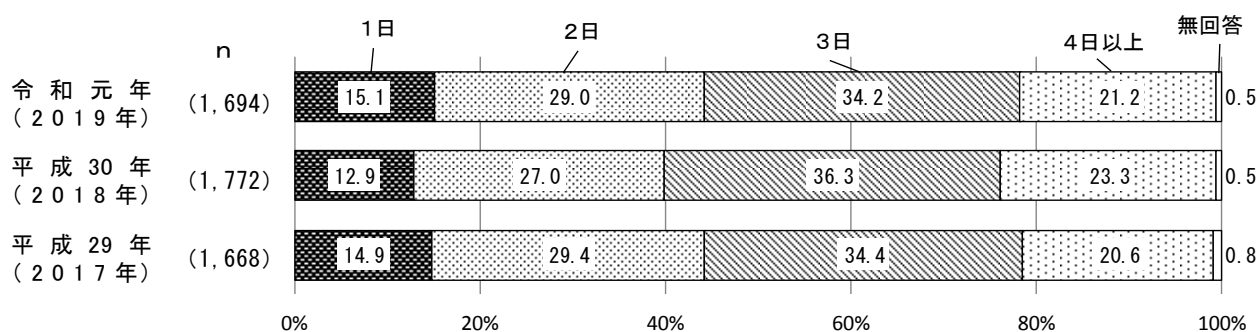
### (13) 飲料水の備蓄量

◇ 「3日」が3割台半ば

(飲料水を「備蓄している」とお答えの方へ)

問22-2-1 家族が何日間過ごせる分の飲料水を備蓄していますか。(○は1つだけ)

図3-13-1 飲料水の備蓄量-全体、経年比較

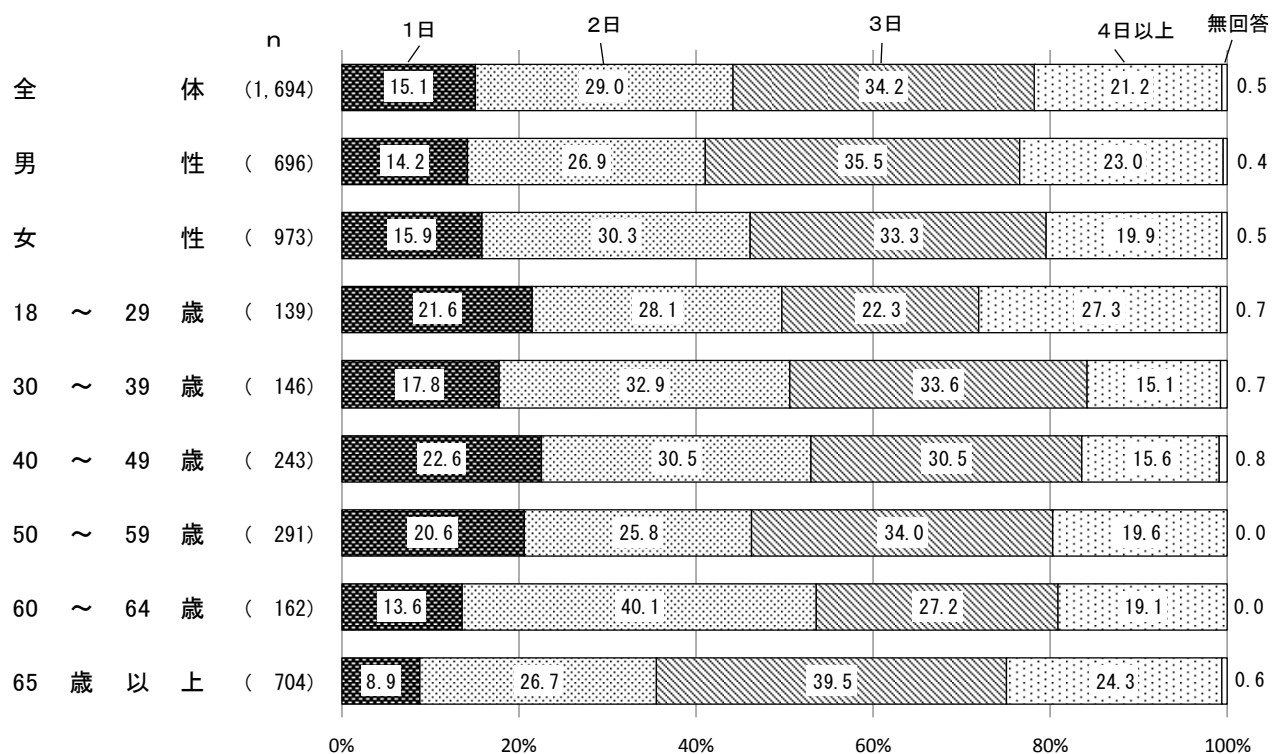


(注) 飲料水は大人1人1日3リットルで計算

飲料水を「備蓄している」と回答した1,694人に、家族が何日間過ごせる分の飲料水を備蓄をしているか聞いたところ、「3日」(34.2%)が3割台半ばと最も多くなっている。以下「2日」(29.0%)は3割弱で、「4日以上」(21.2%)は2割強、「1日」(15.1%)が1割台半ばとなっている。

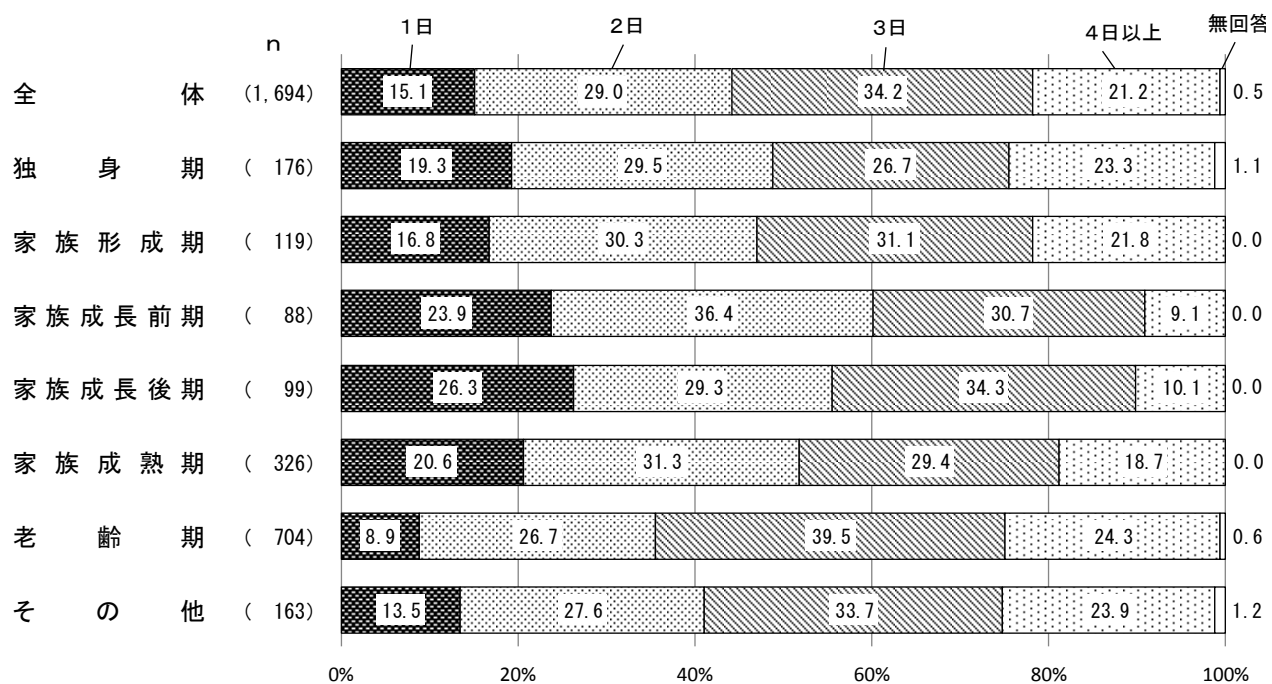
前回までの調査と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。(図3-13-1)

図3-13-2 飲料水の備蓄量-性別、年齢別



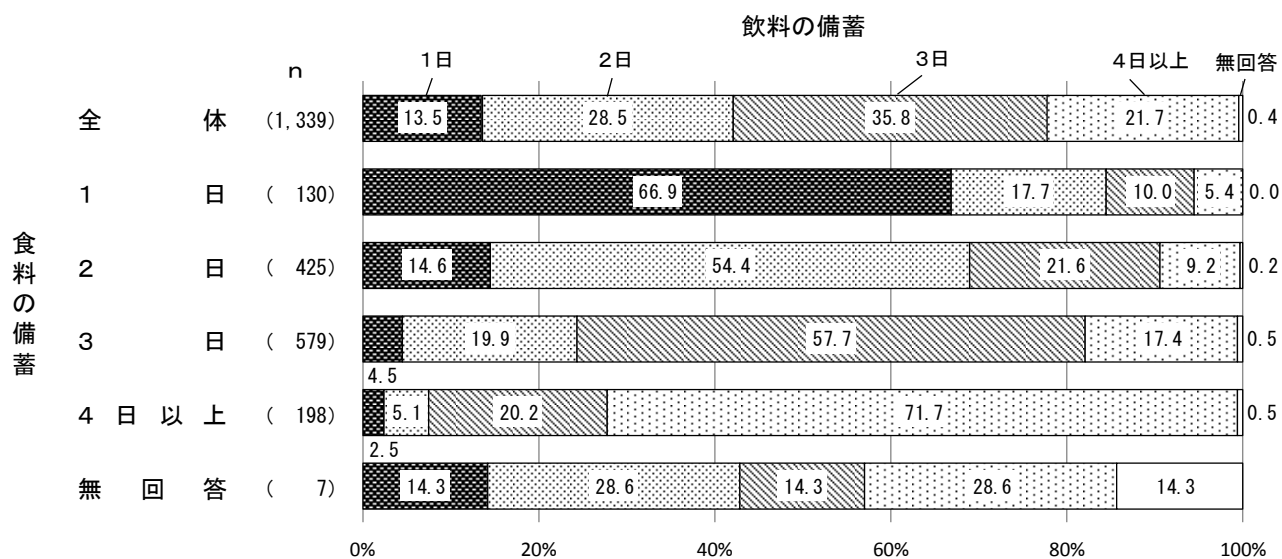
性別にみると、「2日」は女性（30.3%）が男性（26.9%）より3.4ポイント高くなっている。年齢別にみると、「3日」は65歳以上（39.5%）で4割弱と多くなっている。（図3-13-2）

図3-13-3 飲料水の備蓄量-ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「2日」は家族成長前期（36.4%）が4割近くと多くなっている。「1日」は家族成長後期（26.3%）で3割近く、「3日」は老齢期（39.5%）が4割弱と多くなっている。「4日以上」は家族成長前期（9.1%）で1割弱と少なくなっている。（図3-13-3）

図3-13-4 飲料水及び食料の備蓄の有無とその備蓄量



飲料の備蓄量と食料の備蓄量の関係を捉える上で、飲料水及び食料の備蓄量をみると、飲料の備蓄日数と食料の備蓄日数はほぼ相関関係にあり、「飲料、食料ともに4日以上」(71.7%)が7割強で最も多くなっている。(図3-13-4)

図3-13-5 飲料水及び食料の備蓄の有無とその備蓄量(全体に占める人数及び構成比)

n=2,569		飲料の備蓄量							
		4日以上	3日	2日	1日	日数不明	備蓄無し	備蓄有無不明	
		n=359 14.0%	n=580 22.6%	n=491 19.1%	n=256 10.0%	n=8 0.3%	n=833 32.4%	n=42 1.6%	
食料の備蓄量	4日以上	n=217 8.4%	n=142 5.5%	n=40 1.6%	n=10 0.4%	n=5 0.2%	n=1 0.0%	n=18 0.7%	n=1 0.0%
	3日	n=616 24.0%	n=101 3.9%	n=334 13.0%	n=115 4.5%	n=26 1.0%	n=3 0.1%	n=34 1.3%	n=3 0.1%
	2日	n=466 18.1%	n=39 1.5%	n=92 3.6%	n=231 9.0%	n=62 2.4%	n=1 0.0%	n=38 1.5%	n=3 0.1%
	1日	n=151 5.9%	n=7 0.3%	n=13 0.5%	n=23 0.9%	n=87 3.4%	n=0 0.0%	n=21 0.8%	n=0 0.0%
	日数不明	n=8 0.3%	n=2 0.1%	n=1 0.0%	n=2 0.1%	n=1 0.0%	n=1 0.0%	n=1 0.0%	n=0 0.0%
	備蓄無し	n=1,017 39.6%	n=59 2.3%	n=85 3.3%	n=97 3.8%	n=70 2.7%	n=2 0.1%	n=688 26.8%	n=16 0.6%
	備蓄有無不明	n=94 3.7%	n=9 0.4%	n=15 0.6%	n=13 0.5%	n=5 0.2%	n=0 0.0%	n=33 1.3%	n=19 0.7%

飲料の備蓄量と食料の備蓄量の関係を捉える上で、飲料水及び食料の備蓄の有無とその備蓄量(全体に占める人数及び構成比)をみると、「飲料、食料ともに備蓄無し」(n=688、26.8%)が全体の3割近くと最も多くなっている。次いで「飲料、食料ともに3日分」(n=334、13.0%)が1割強で続き、以下「飲料、食料ともに2日分」(n=231、9.0%)、「飲料、食料ともに4日分以上」(n=142、5.5%)などの順となっている。なお、《飲料と食料の両方をともに3日分以上備蓄》(グレー網掛け部分)(n=617、24.0%)している人は全体の2割台半ばとなっている。(図3-13-5)

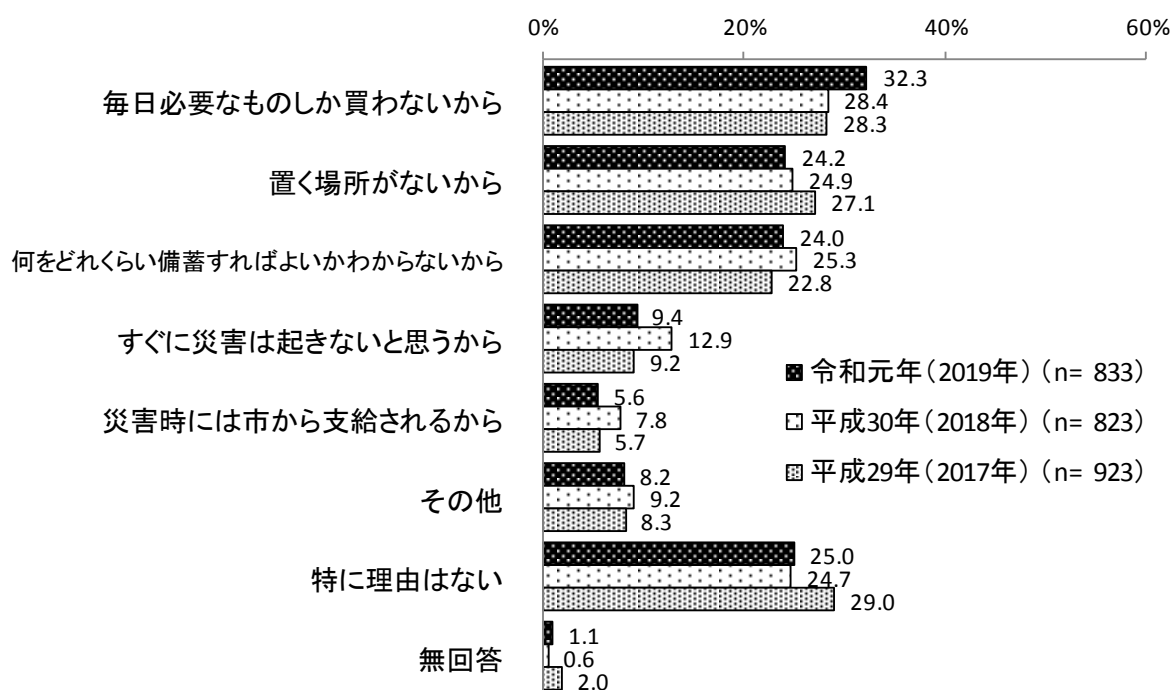
## (14) 飲料水を備蓄していない理由

◇「毎日必要なものしか買わないから」が3割強

(飲料水を「備蓄していない」とお答えの方へ)

問22-2-2 飲料水を備蓄していない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

図3-14-1 飲料水を備蓄していない理由—全体、経年比較

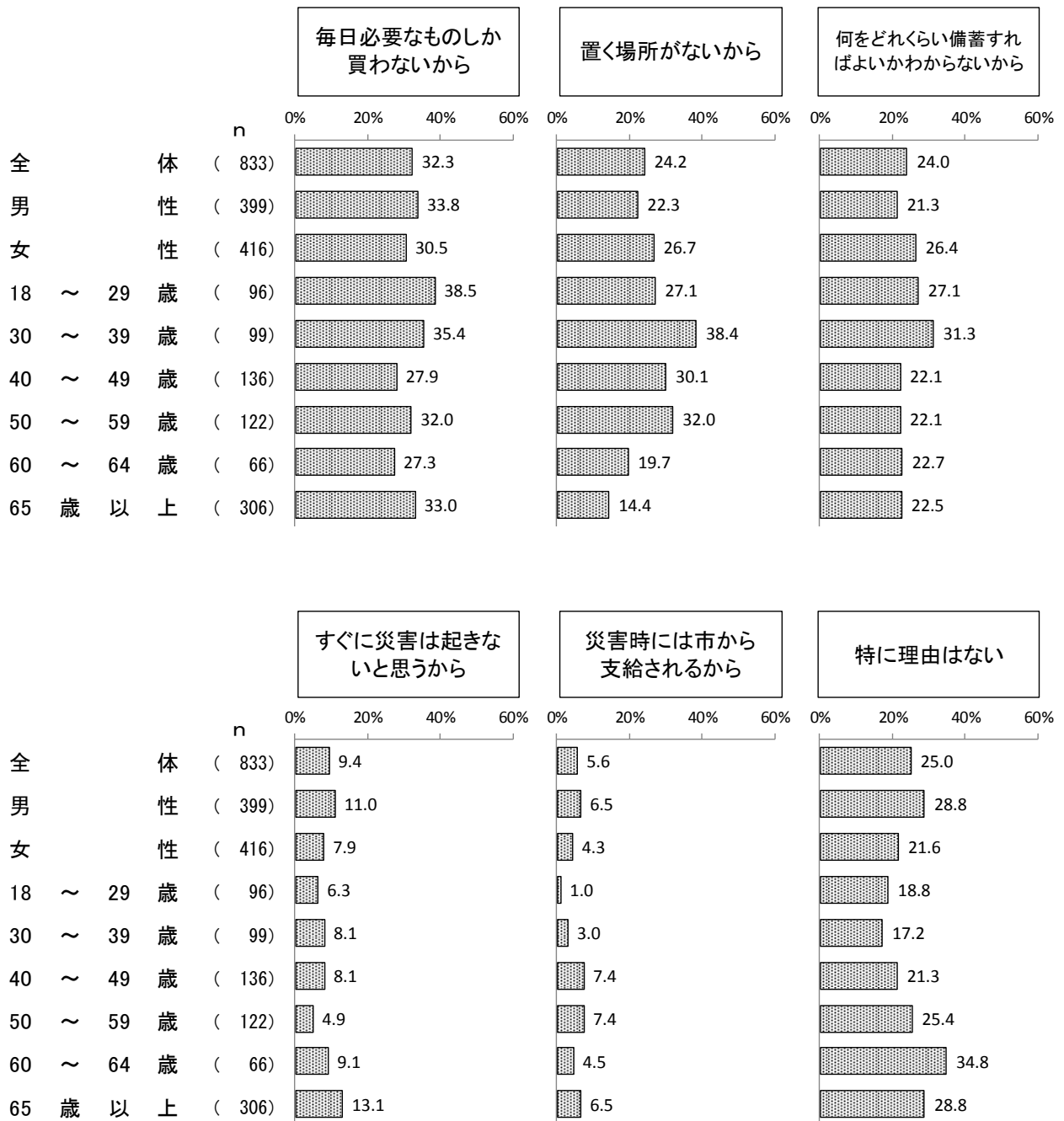


飲料水を「備蓄していない」と回答した833人に、その理由を聞いたところ、「毎日必要なものしか買わないから」(32.3%)が最も多く3割強となっている。以下「置く場所がないから」(24.2%)、「何をどれくらい備蓄すればよいかわからないから」(24.0%)などの順となっている。

前回までの調査と比較すると、「毎日必要なものしか買わないから」は平成30年(2018年)(28.4%)より3.9ポイント増加しており、「置く場所がないから」は2年連続で微減傾向にある。

(図3-14-1)

図3-14-2 飲料水を備蓄していない理由（「その他」を除く）—性別、年齢別

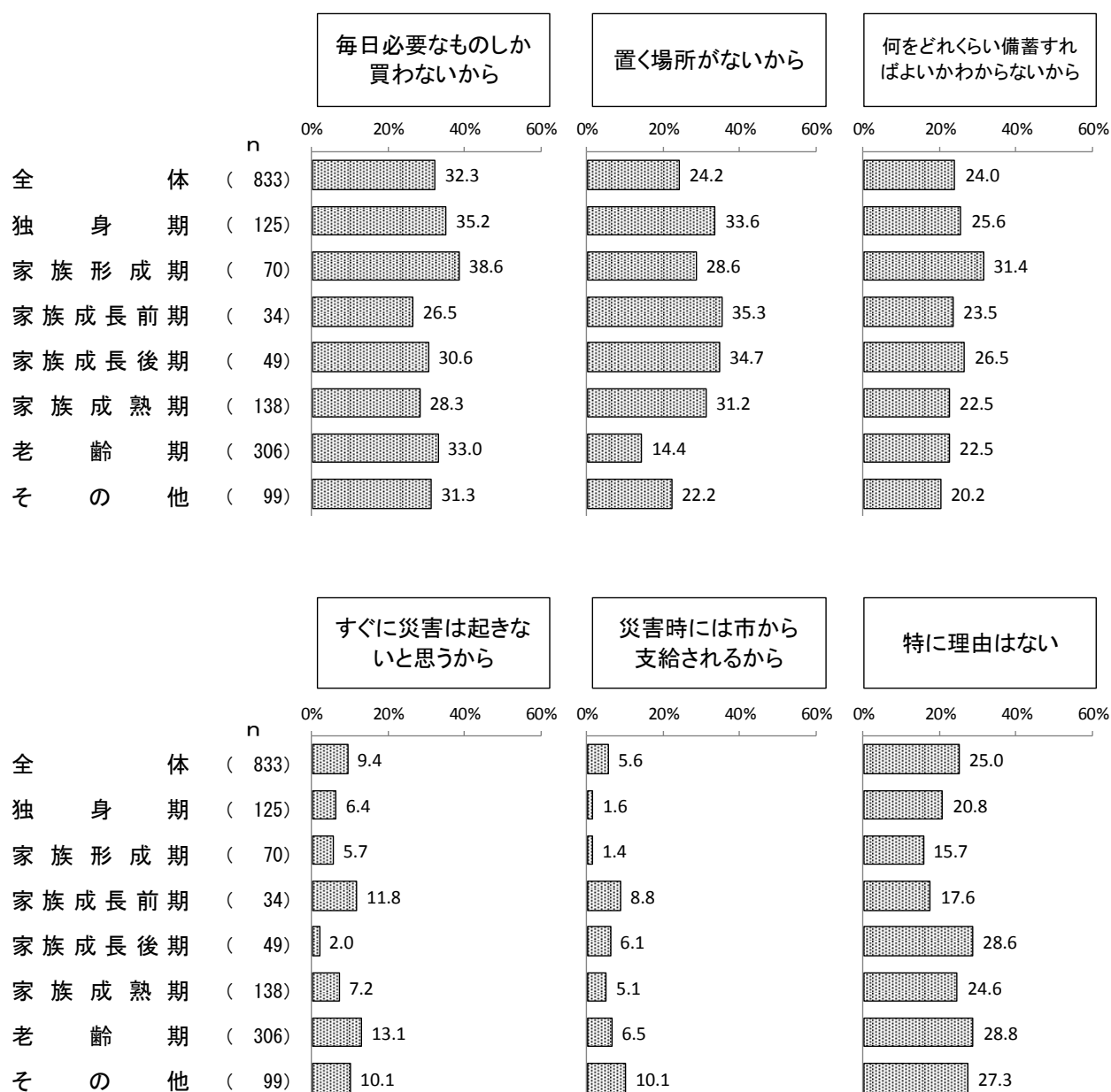


性別にみると、「何をどれくらい備蓄すればよいかわからないから」は女性（26.4%）が男性（21.3%）より5.1ポイント高く、「置く場所がないから」も女性（26.7%）が男性（22.3%）より4.4ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「毎日必要なものしか買わないから」は18～29歳（38.5%）で4割近くと多くなっており、「置く場所がないから」は30～39歳（38.4%）で4割近くと多くなっている。

（図3-14-2）

図3-14-3 飲料水を備蓄していない理由（「その他」を除く）－ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「毎日必要なものしか買わないから」は家族形成期（38.6%）で4割近くと多い一方、家族成長前期（26.5%）では3割近くと少なくなっている。「置く場所がないから」は家族成長前期（35.3%）で3割台半ばと最も多くなっており、「すぐに災害は起きないと思うから」は老齢期（13.1%）で1割強と多くなっている。（図3-14-3）

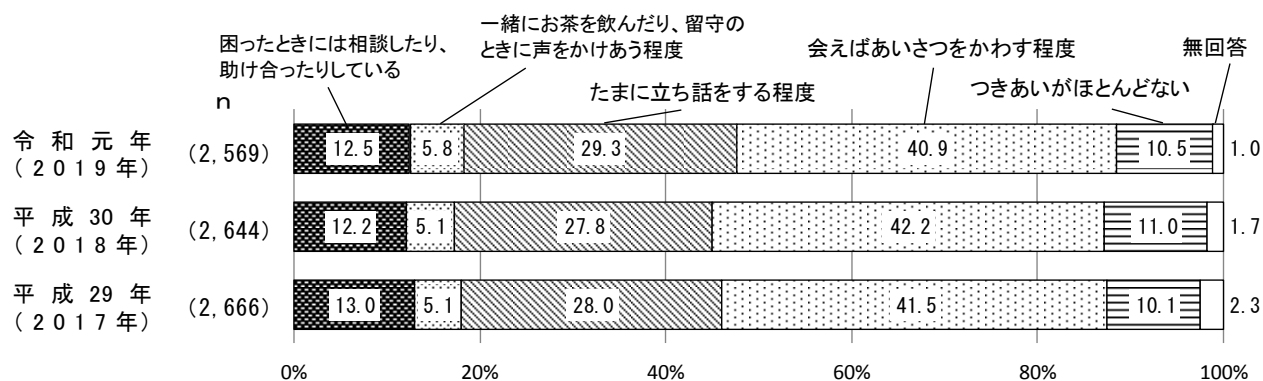


## (15) 隣近所とのつきあい方

◇「会えばあいさつをかわす程度」が約4割

問23 あなたは、日頃、隣近所とどのようなつきあい方をしていますか。(○は1つだけ)

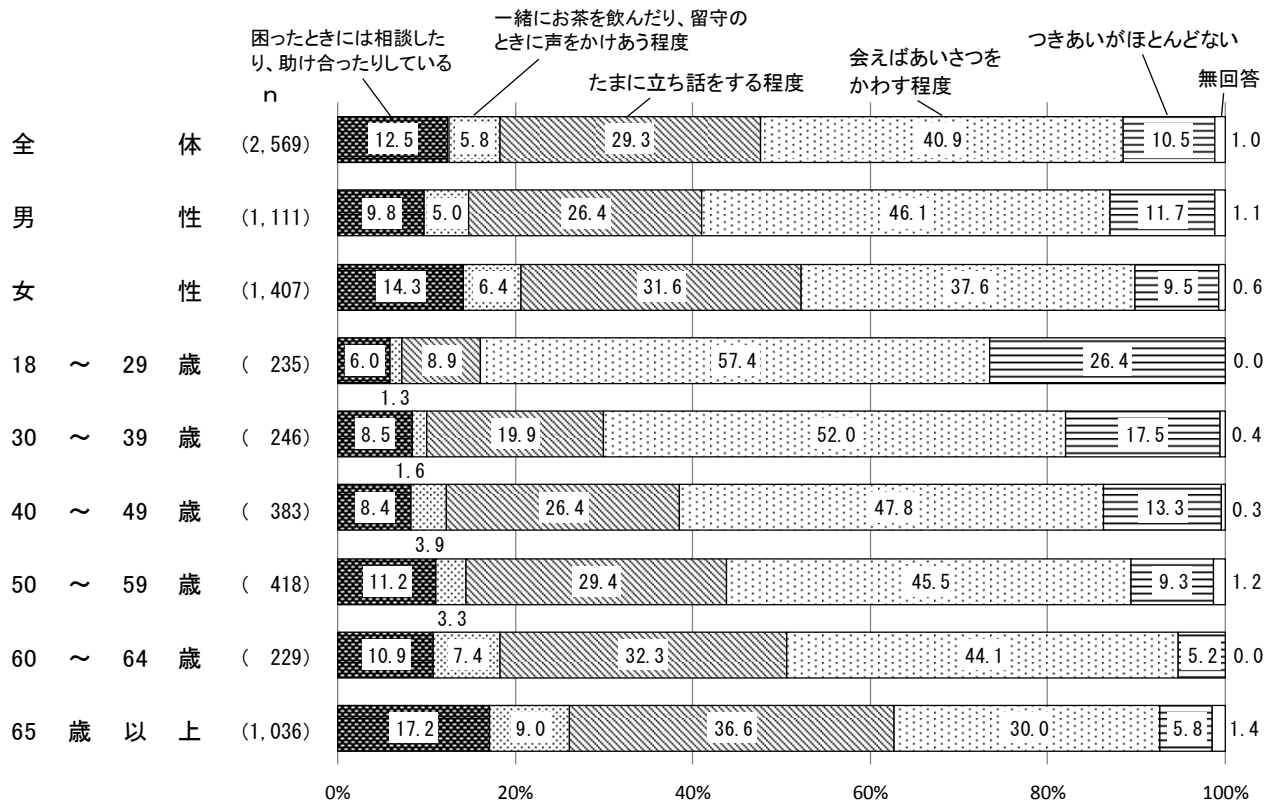
図3-15-1 隣近所とのつきあい方—全体、経年比較



日頃、隣近所とどのようなつきあい方をしているか聞いたところ、「会えばあいさつをかわす程度」(40.9%)が最も多く約4割となっている。以下「たまに立ち話をする程度」(29.3%)は3割弱、「困ったときには相談したり、助け合ったりしている」(12.5%)が1割強となっている。

前回までの調査と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。(図3-15-1)

図3-15-2 隣近所とのつきあい方—性別、年齢別

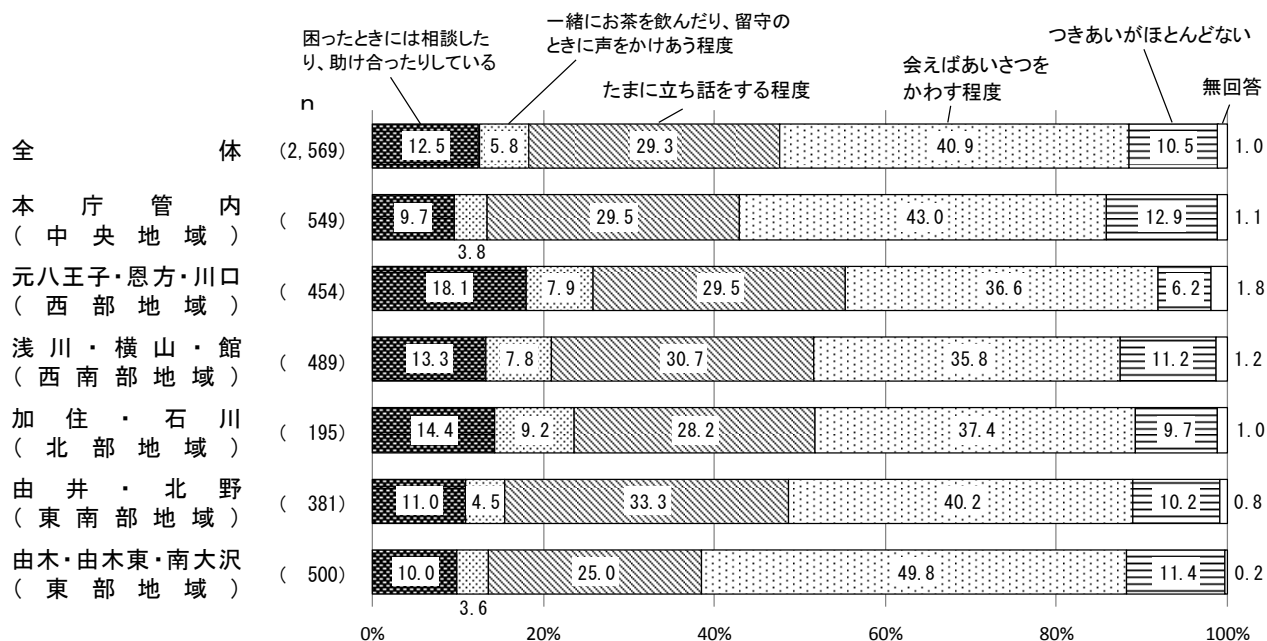


性別にみると、「会えばあいさつをかわす程度」は男性（46.1%）が女性（37.6%）より8.5ポイント高い一方、「たまに立ち話をする程度」は女性（31.6%）が男性（26.4%）より5.2ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「困ったときには相談したり、助け合ったりしている」は65歳以上（17.2%）で2割近くと多くなっている。「たまに立ち話をする程度」は高い年代ほど割合が高くなっており、65歳以上（36.6%）で4割近くと多くなっている。逆に「会えばあいさつをかわす程度」は低い年代ほど割合が高くなっており、18～29歳（57.4%）で6割近くと多くなっている。また、「つきあいがほとんどない」も低い年代ほど割合が高く、18～29歳（26.4%）で3割近くと多くなっている。

(図3-15-2)

図3-15-3 隣近所とのつきあい方—居住地域別



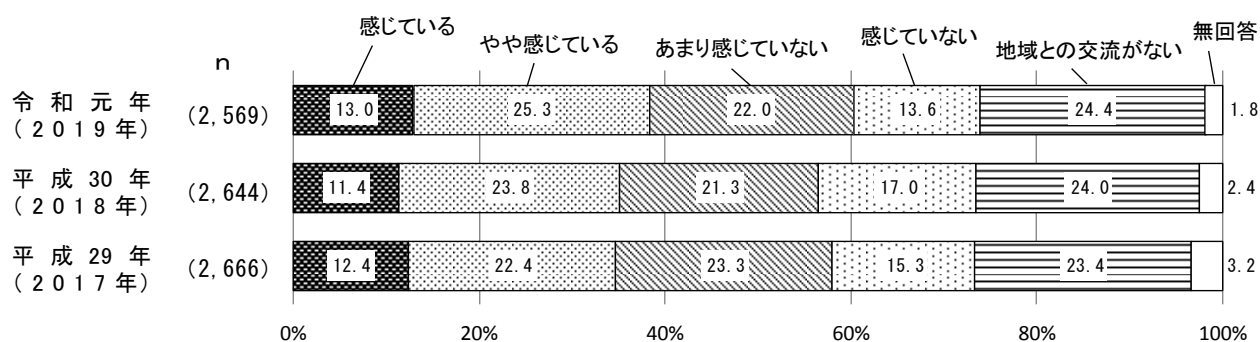
居住地域別にみると、「困ったときには相談したり、助け合ったりしている」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（18.1％）で2割近くと多くなっている。「会えばあいさつをかわす程度」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（49.8％）で5割弱と多くなっている一方、浅川・横山・館（西南部地域）（35.8％）で3割台半ばと少なくなっている。（図3-15-3）

## (16) 地域での交流や活動による充実感や生きがい

◇《感じている》が4割近く

問24 あなたは、地域の人と交流したり、地域の活動に参加したりすることで、充実感や生きがいを感じていますか。(○は1つだけ)

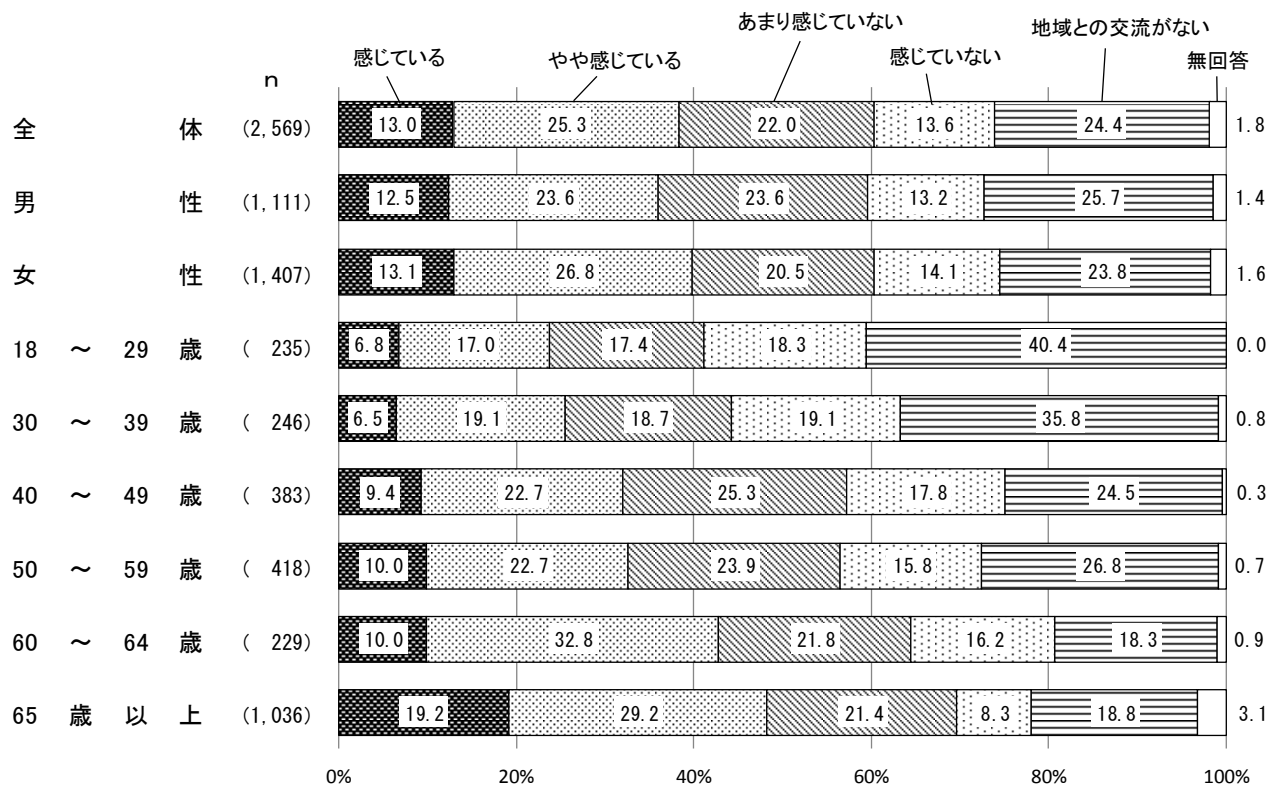
図3-16-1 地域での交流や活動による充実感や生きがい—全体、経年比較



地域の人と交流したり、地域の活動に参加したりすることで充実感や生きがいを感じているか聞いたところ、「感じている」(13.0%)と「やや感じている」(25.3%)を合わせた《感じている》(38.3%)が4割近くとなっている。一方、「あまり感じていない」(22.0%)と「感じていない」(13.6%)を合わせた《感じていない》(35.6%)は3割台半ばとなっている。

前回調査と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。(図3-16-1)

図3-16-2 地域での交流や活動による充実感や生きがい—性別、年齢別

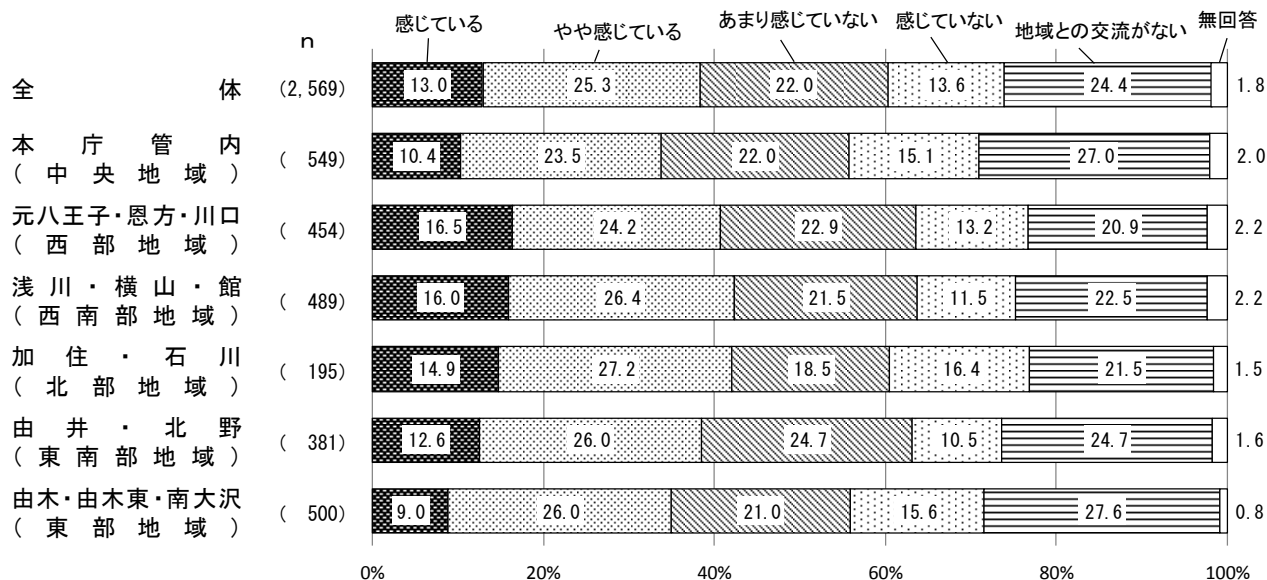


性別にみると、「感じている」は女性（39.9%）が男性（36.1%）より3.8ポイント高くなっており、逆に「感じていない」は男性（36.8%）が女性（34.6%）より2.2ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「感じている」は年代が高くなるにつれて割合も高まり、65歳以上（48.4%）で5割近くと多くなっているのに対し、18～29歳（23.8%）で2割強と少なくなっている。

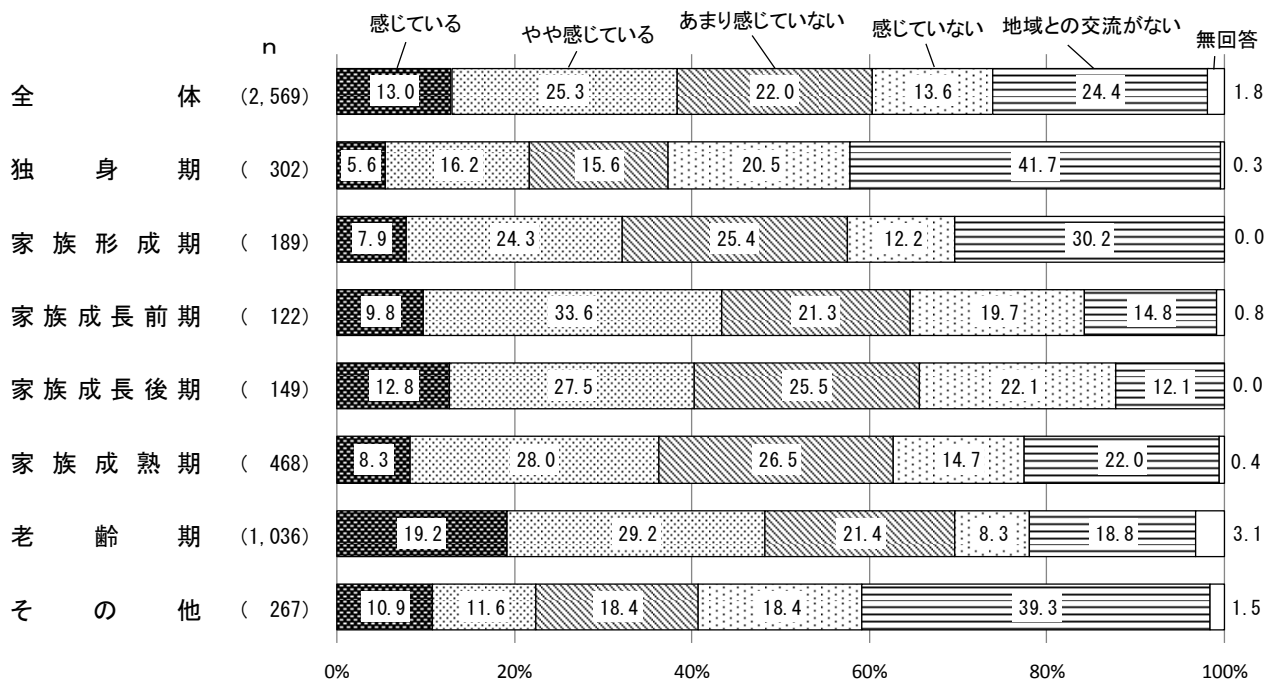
(図3-16-2)

図3-16-3 地域での交流や活動による充実感や生きがい—居住地域別



居住地域別にみると、本庁管内（中央地域）は《感じている》（33.9%）が少なくなっている。一方で、「地域との交流がない」（27.0%）が多くなっている。（図3-16-3）

図3-16-4 地域での交流や活動による充実感や生きがい—ライフステージ別



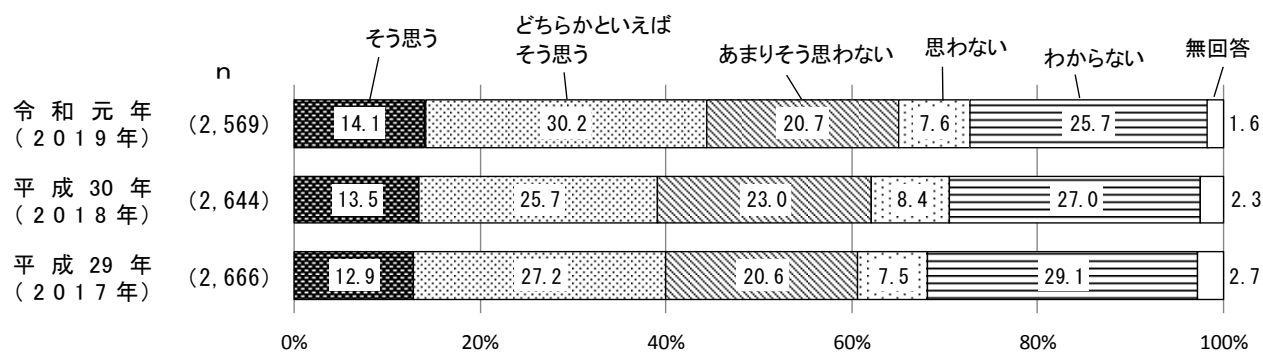
ライフステージ別にみると、《感じている》は老齢期（48.4%）で5割近くと多い一方、独身期（21.8%）は2割強と少なくなっている。「地域との交流がない」は独身期とその他でともに多くなっており、中でも独身期（41.7%）が4割強と特に多くなっている。（図3-16-4）

## (17) 地域と子どもたちとのかかわりあい

◇《《そう思う》》が4割台半ば

問25 あなたのお住まいの地域では、子どもたちが、家族だけでなく地域の人にも見守られ、かかわりあいながら成長していると思いますか。(○は1つだけ)

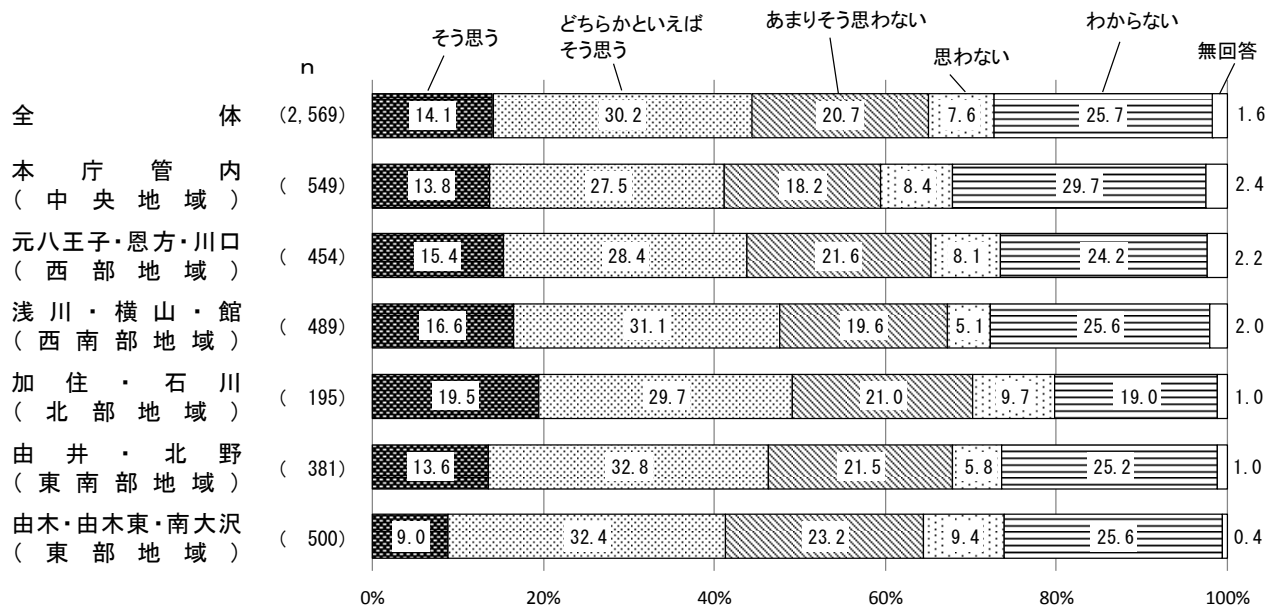
図3-17-1 地域と子どもたちとのかかわりあい—全体、経年比較



子どもたちが、家族だけでなく地域の人にも見守られ、かかわりあいながら成長していると思うか聞いたところ、「そう思う」(14.1%)と「どちらかといえばそう思う」(30.2%)を合わせた《《そう思う》》(44.3%)が4割台半ばとなっている。一方、「あまりそう思わない」(20.7%)と「思わない」(7.6%)を合わせた《《そう思わない》》(28.3%)は3割近くとなっている。

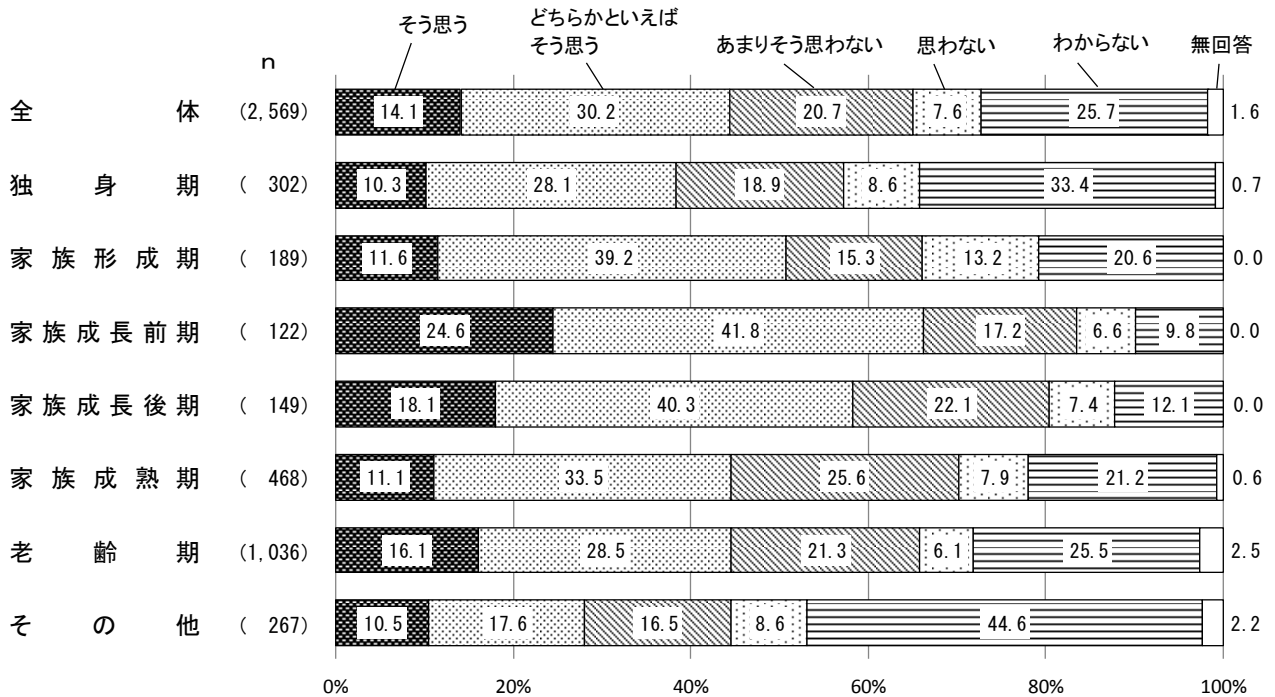
前回までの調査と比較すると、《《そう思う》》が平成30年(2018年)(39.2%)より5.1ポイント増加している。(図3-17-1)

図3-17-2 地域と子どもたちとのかかわりあいー地域別



地域別にみると、「そう思う」は加住・石川（北部地域）（49.2%）で5割弱と多くなっており、本庁管内（中央地域）（41.3%）と由木・由木東・南大沢（東部地域）（41.4%）で4割強と少なくなっている。（図3-17-2）

図3-17-3 地域と子どもたちとのかかわりあいーライフステージ別



ライフステージ別にみると、「そう思う」は家族成長前期（66.4%）で7割近くと多くなっており、その他（28.1%）で3割近くと少なくなっている。（図3-17-3）

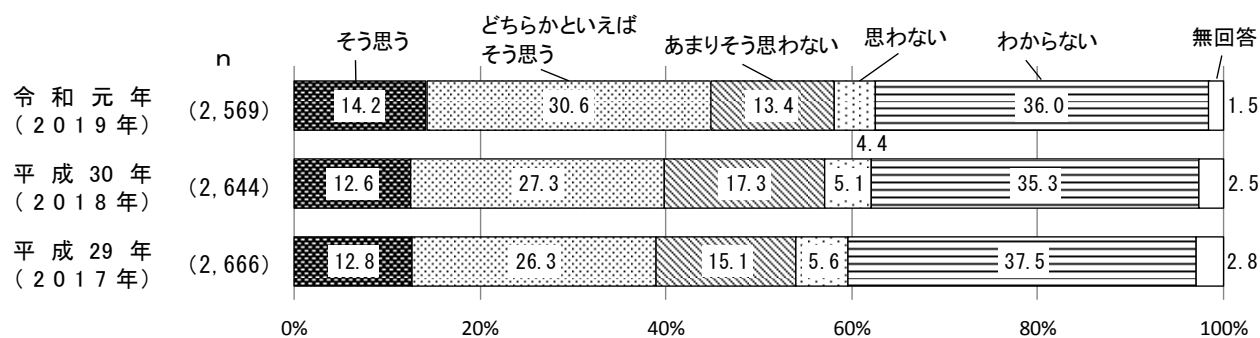


## (18) 地域と学校の協力による子どもたちの育み

◇《そう思う》が4割台半ば

問26 あなたのお住まいの地域では、地域と学校が、ともに協力し合って子どもたちを育てていると思いますか。(○は1つだけ)

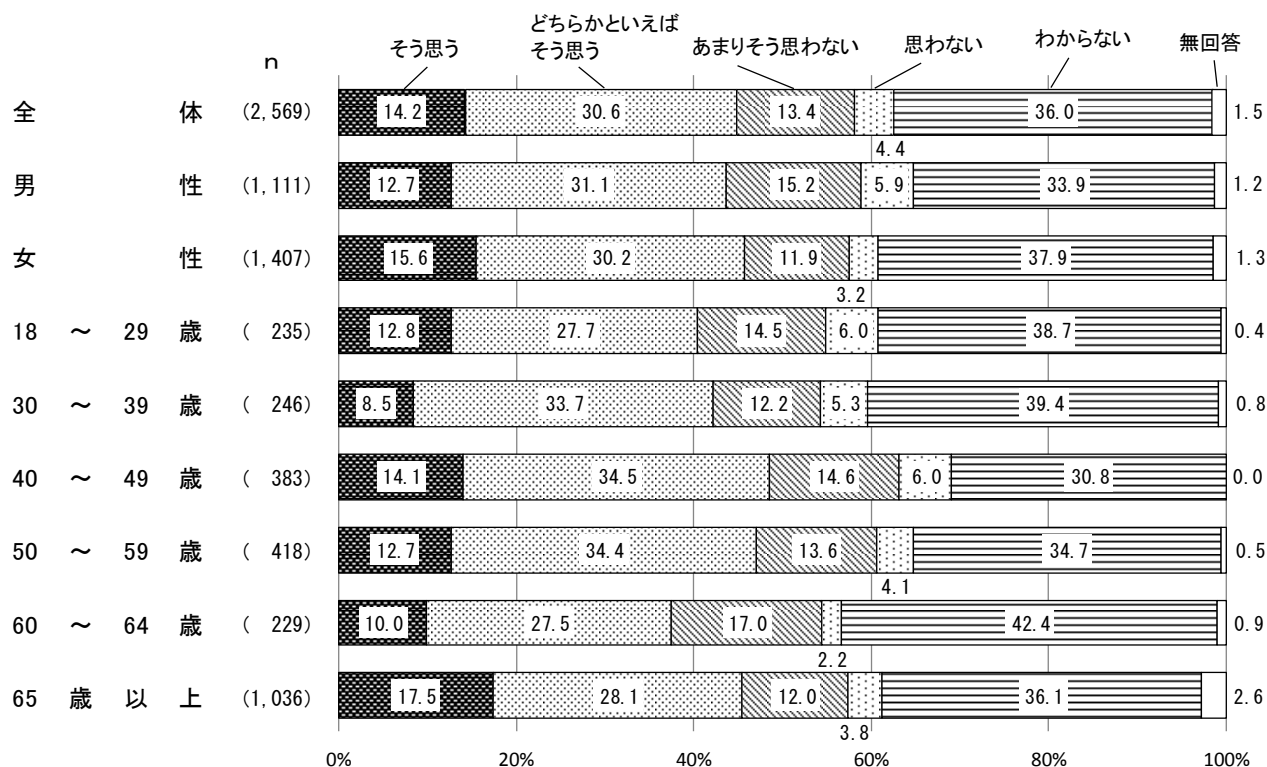
図3-18-1 地域と学校の協力による子どもたちの育み—全体、経年比較



地域と学校が、ともに協力し合って子どもたちを育てていると思うか聞いたところ、「そう思う」(14.2%)と「どちらかといえばそう思う」(30.6%)を合わせた《そう思う》(44.8%)が4割台半ばとなっている。一方、「あまりそう思わない」(13.4%)と「思わない」(4.4%)を合わせた《そう思わない》(17.8%)は2割近くとなっている。

前回までの調査と比較すると、《そう思う》が平成30年(2018年)(39.9%)より4.9ポイント増加している。(図3-18-1)

図3-18-2 地域と学校の協力による子どもたちの育み—性別、年齢別

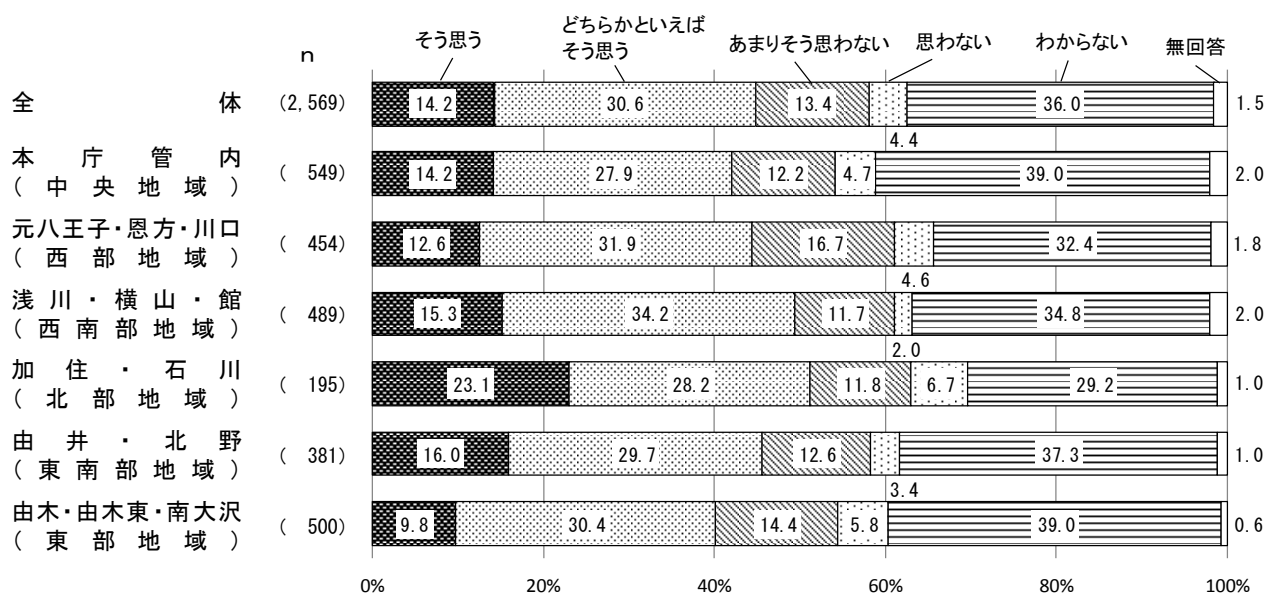


性別にみると、「あまりそう思わない」は男性（21.1%）が女性（15.1%）より6.0ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「そう思う」は40～49歳（48.6%）で5割近くと多くなっている。

(図3-18-2)

図3-18-3 地域と学校の協力による子どもたちの育み—居住地域別



居住地域別にみると、「そう思う」は加住・石川（北部地域）（51.3%）で5割強と多くなっている。（図3-18-3）